

Concert

KORG DIGITAL PIANO

取扱説明書 **C-56M**

KORG

このたびはコンサート C-56Mをお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品を末永くご愛用いただくためにもこの取扱説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用ください。

ご使用になるまえに

■使用する場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所
- 温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- 砂やホコリの多い場所

■電源について

- 電源コードのプラグは、必ず AC100Vの電源コンセントに差し込んでお使いください。お買い上げになった製品は国内仕様ですので、100V以外の電源コンセントは絶対に接続しないでください。
- 電源のタコ足配線は、雑音が出たり音質が悪くなる原因となることがありますので、ご注意ください。

■取り扱いはやさしく

- スイッチやスライダーつまみなどに必要以上の力を加えたりすると、故障の原因となりますので、取り扱いには十分にご注意ください。
- キーカバー上に必要以上の力を加えたり、乱暴に開閉しないでください。故障の原因となることがあります。

■設置場所について

- C-56Mは、本体の音響特性上、背面からも音が出る構造になっております。お部屋に設置される場合には、本体を壁などから少し離して隙間を設けることにより、よりいっそう臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。お好みにより位置を調節してください。

■異物混入のご注意

- 本体の上には、コップ・花瓶など液体の入ったものは絶対に置かないでください。本体に液体が入ると故障するばかりか火災・感電などの恐れもあります。
- 本体の内部には（鍵盤と鍵盤のすきまなどから）、ヘアピン・硬貨などの金属物が入らないようにご注意ください。上記の場合は、本体の電源スイッチをOFFにし、AC電源コードをコンセントより抜いてから、最寄りの営業所、または販売店にご連絡ください。

■お手入れ

- 外装のお手入れのときには、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジン、シンナー系の溶剤や、強燃性のポリッシャーなどは絶対に使用しないでください。

■保証書の手続き

- 保証書は、購入時点での手続きが行なわれていない場合、無効となることがあります。必ずお買い上げのお店で手続きを行なったうえで、大切に保管してください。

■取り扱い説明書は大切に

- この取り扱い説明書はお読みになったあとも大切に保管してください。

バックアップバッテリーについて

C-56Mには、電源を切った後各音色にて設定したエフェクトなどの内容を保持するためのバックアップ用のリチウム・バッテリーを装備しています。製品をお求めになった後5年を目安として、最寄りのサービスセンターまたは販売店にお問い合わせのうえ、バッテリーの交換を行ってください。

目次

ご使用になるまえに	1	いろいろな録音機能	26
スタンドの組み立て方	3	一方のトラックを再生しながら、 もう一方のトラックに録音するには	26
各部の名称	5	曲の最後に新たに演奏を付け足したいときは	27
フロントパネル	5	二つのトラックの演奏データを、 一つのトラックにまとめたいときは	28
リアパネル	6		
弾いてみましょう	7	メトロノーム機能	29
音色を変えて弾いてみましょう	8	メトロノームの拍子を設定するには	29
音色にエフェクトをかけてみましょう	9	MIDIを使って	31
1. サラウンド系のエフェクト	9	MIDIモードの設定	31
2. モジレーション系のエフェクト	9	1. MIDIチャンネルの設定	32
3. イコライザー系のエフェクト	9	2. ローカル・オン/オフ	32
二つの音色を同時に出してみましょう	10	3. プログラム・チェンジ	33
レイヤー・モード (一つの鍵から同時に2種類の音を出す)	10	4. コントロール・チェンジ	34
スプリット・モード (高音鍵と低音鍵とで異なった音を出す)	10	5. ベロシティ・カーブ・セレクト	35
二つの音色のボリュームのバランスを変える	12	外部MIDI機器との同期	36
ペダルを使ってみましょう	13	MIDIマルチ機能を活用しましょう	37
古典音律を使って演奏してみましょう	14	MIDIデータ・ダンプ機能	39
タッチコントロール機能	15	C-56Mの演奏データを、 データ・ファイラーに保管するには	39
デモ演奏を聴いてみましょう	16	データ・ファイラーに保管しておいた演奏データを、 C-56Mのレコーダーに戻すには	40
トランスポーズ機能	17	MIDIインプリメンテーション	41
ピッチコントロール	19	MIDI/TRANSPPOSEスイッチの機能	43
演奏を録音・再生してみましょう	20	故障とお思いになる前に	44
演奏を録音してみましょう	21	仕様	44
あとどのくらい録音できるか知りたいときには	22	アフターサービス	45
録音した演奏を聴いてみましょう	23		
リピート演奏を行うには	24		
リピート区間の設定	24		
リピート区間の解除	25		

スタンドの組み立て方

●組み立てには、+（プラス）のドライバーが必要です。ご用意ください。

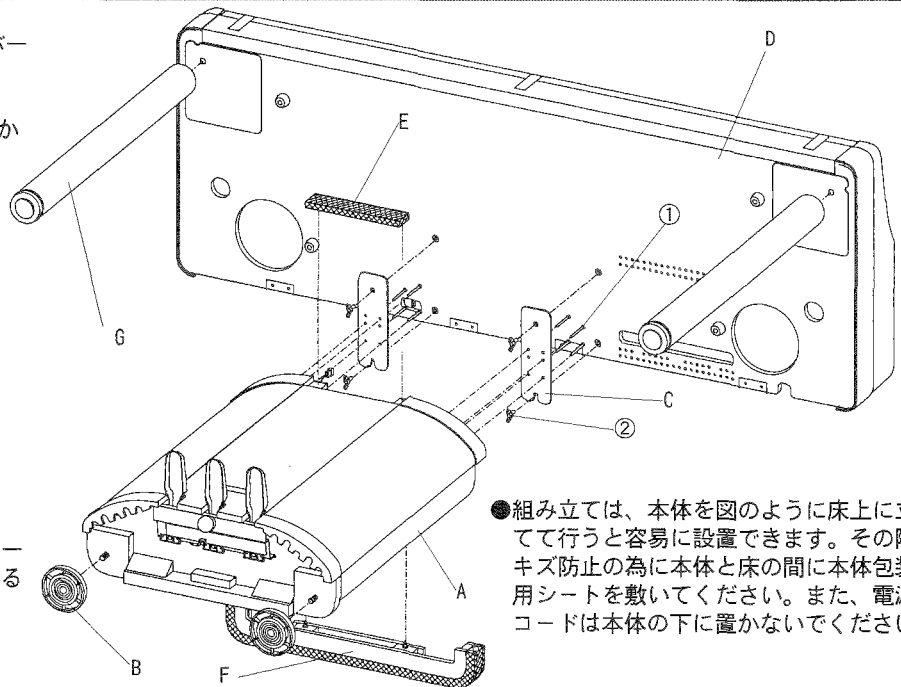
●箱を開けたら、各部品が揃っているか確認してください。

（ D. キーボード本体 ）

- A. ボックススタンド…1
- B. アジャスター…2
- C. 本体取付金具…2
- E. フロントネット…1
- F. リアネット…1
- G. パイプ足…2

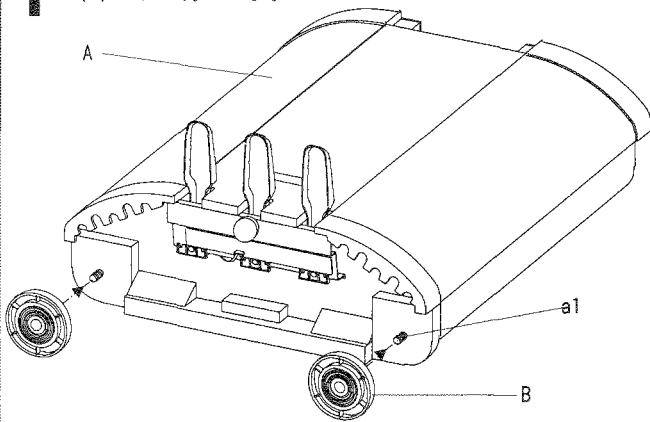
- ①. ビス…8
- ②. 蝶ネジ…4

●キーカバーのテープと譜面立てのテープは、完全にセッティングが終了するまではがさないでください。

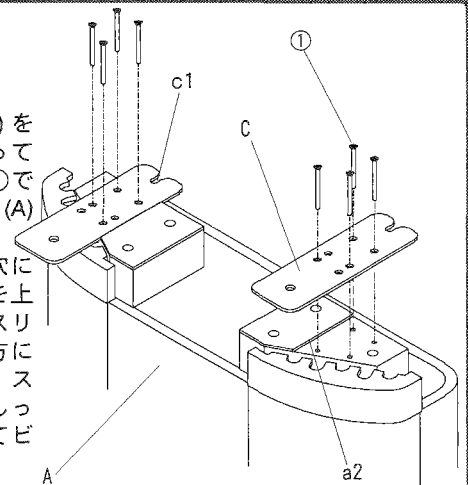


●組み立ては、本体を図のように床上に立てて行くと容易に設置できます。その際キズ防止の為に本体と床の間に本体包装用シートを敷いてください。また、電源コードは本体の下に置かないでください。

1 ボックススタンド (A) のネジ部 (a1) に、アジャスター (B) を取り付けます。

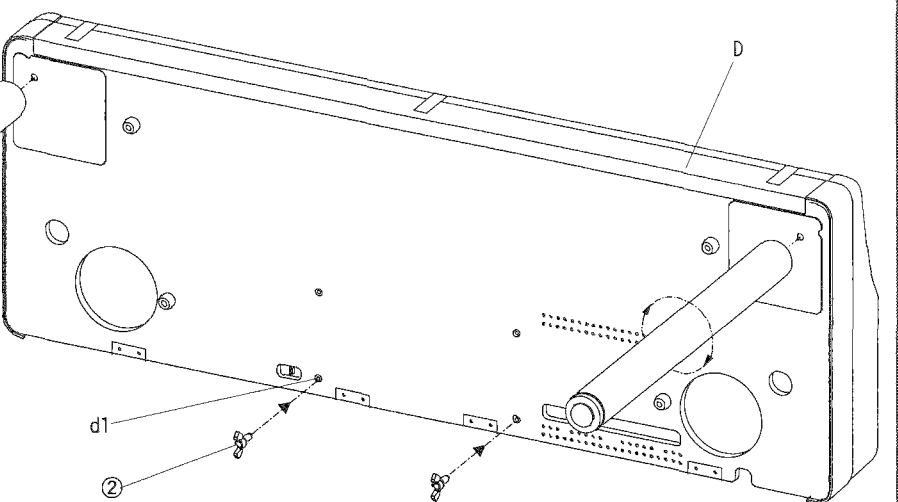


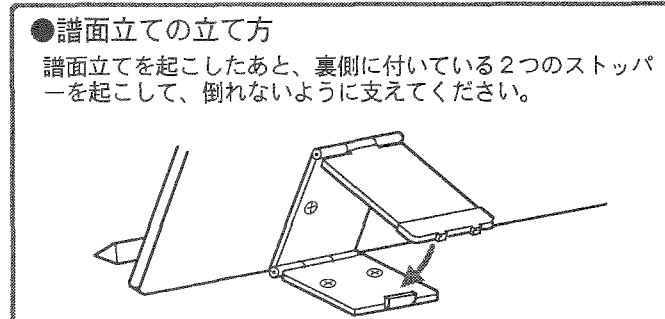
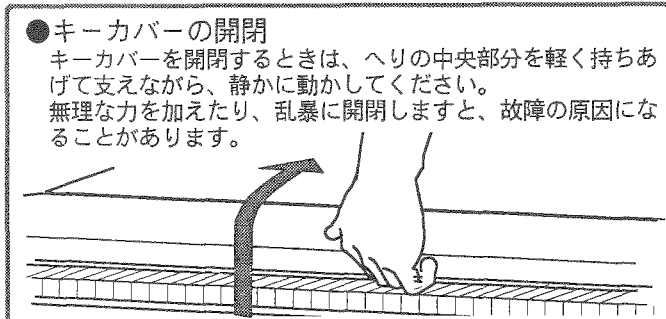
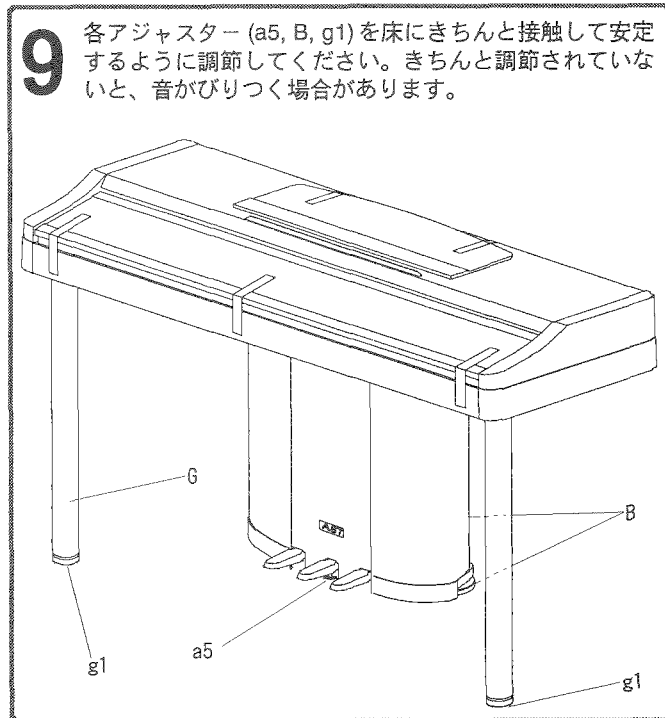
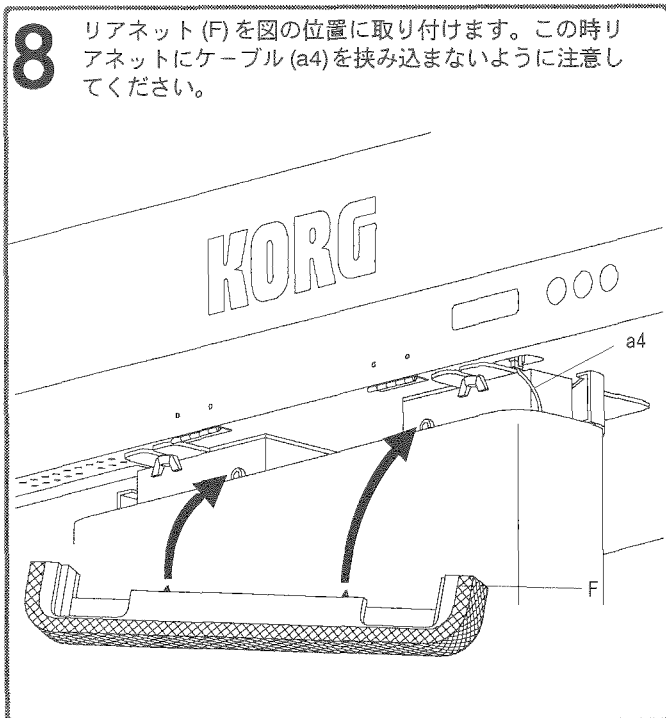
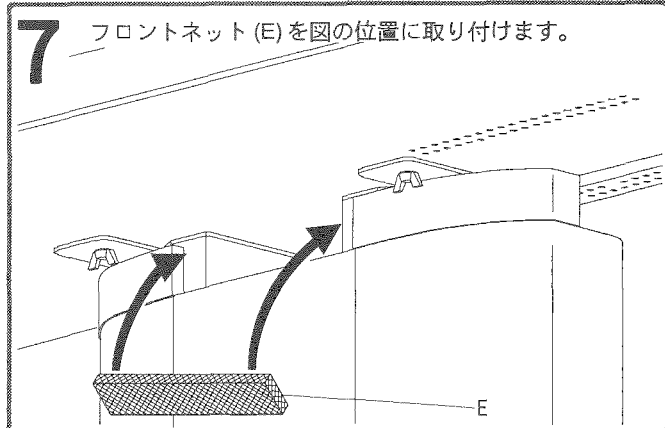
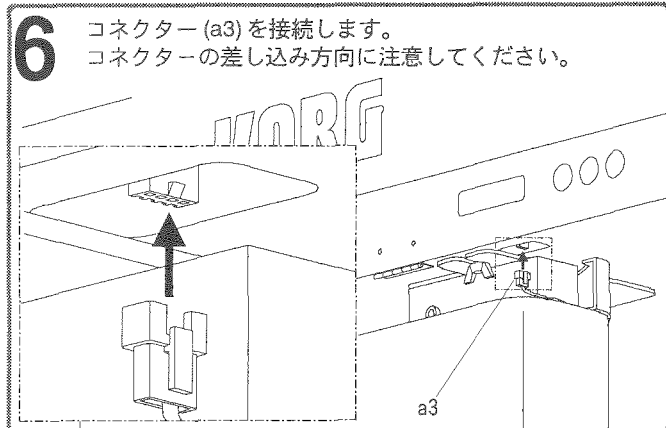
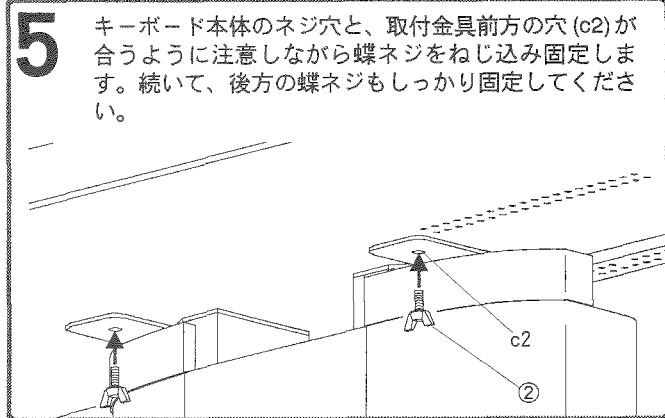
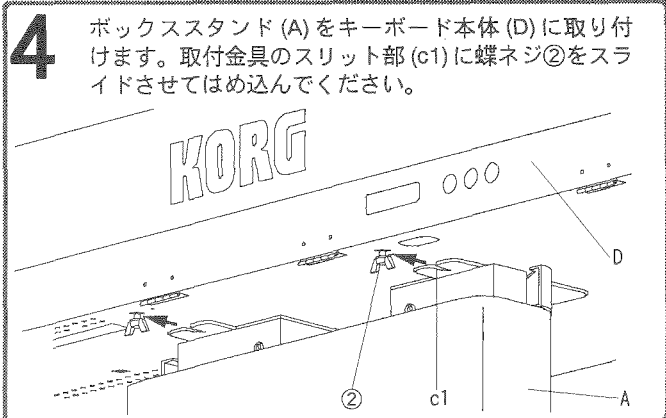
2 本体取付金具 (C) をドライバーを使って図のようにビス①でボックススタンド (A) に固定します。取付金具はビス穴にへこみのある方を上にし、なおかつスリット部 (c1) が後方にくるようにして、スタンドの (a2) しっかりと押し当ててビスで止めます。



3 キーボード本体 (D) 底面のネジ穴 (d1) に蝶ネジ②を取り付けます。このとき強く止めないでキーボード本体と蝶ネジの間隔は5-6mm程度あくようにしてください。

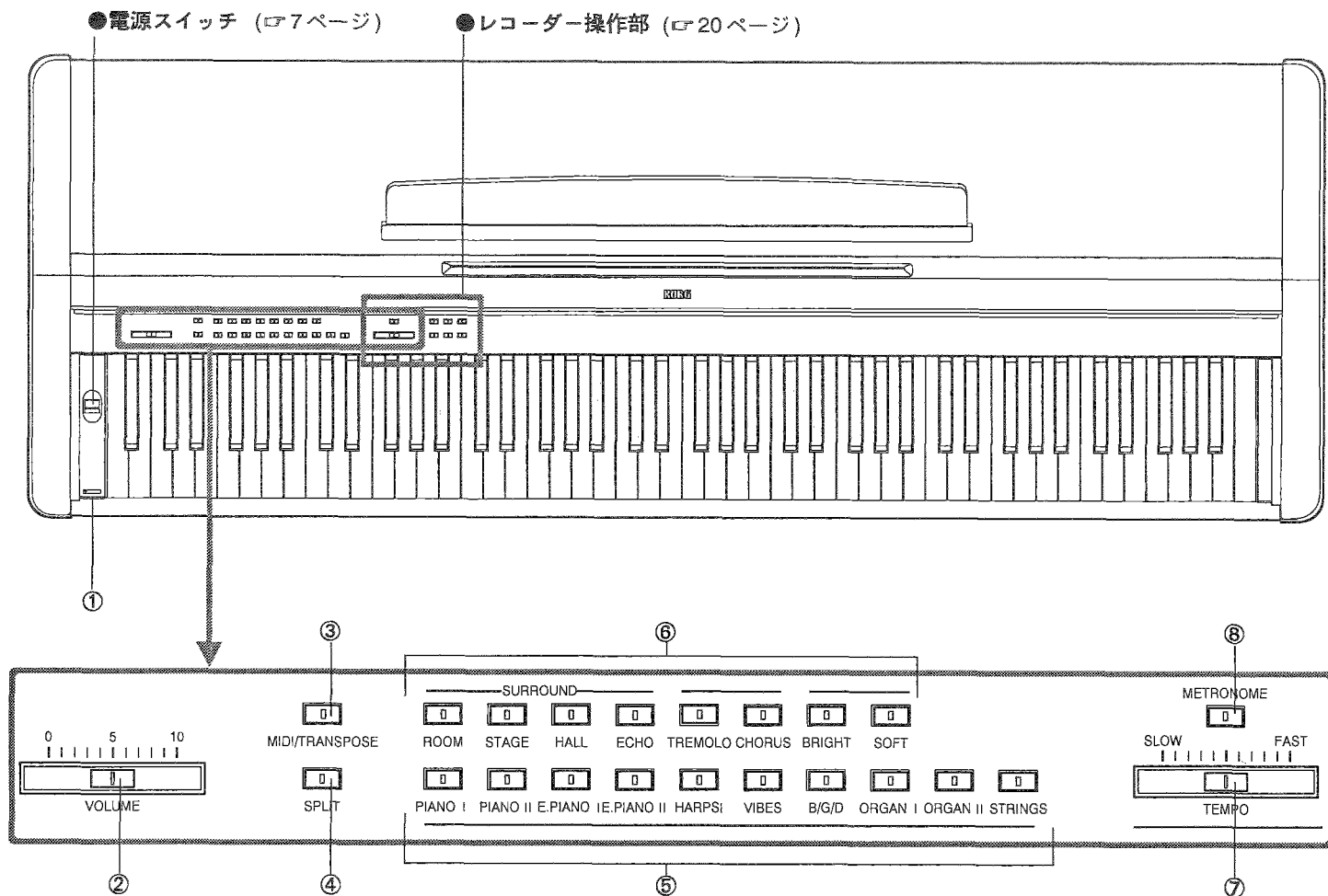
そして、パイプ足 (G) をキーボード本体にねじ込みます。無理に斜めにねじ込みますとネジ山を痛める恐れがありますので注意してください。





各部の名称

フロントパネル



①ヘッドホン端子

ステレオ・ヘッドホンを接続する端子です。
ヘッドホンを接続しますと、本体のスピーカーからは音が出ませんので、夜間でも自由な音量で演奏をお楽しみ頂けます。

②ボリュームスライダー (7ページ)

音量を調節するスライダーです。

③MIDI/TRANSPOSEスイッチ

MIDIモードの設定 (31ページ) と、トランスポーズを設定するときに使います。(17ページ)
また、この他さまざまな設定に使用します。(43ページ)

④スプリットスイッチ

高音部、低音部を別々の音色で弾くためのスプリット機能設定時に使用します。(10ページ)

⑤音色セレクター

音色を選択するスイッチです (8ページ)。1つのスイッチを押さえたまま別の音色スイッチを押しますと、同時に2音色で演奏できるレイヤー機能として使用することができます (10ページ)。

⑥エフェクトセレクター (9ページ)

エフェクトを選択するスイッチです。3つのグループから1つずつ選んで、同時に3種類のエフェクトをかけることができます。

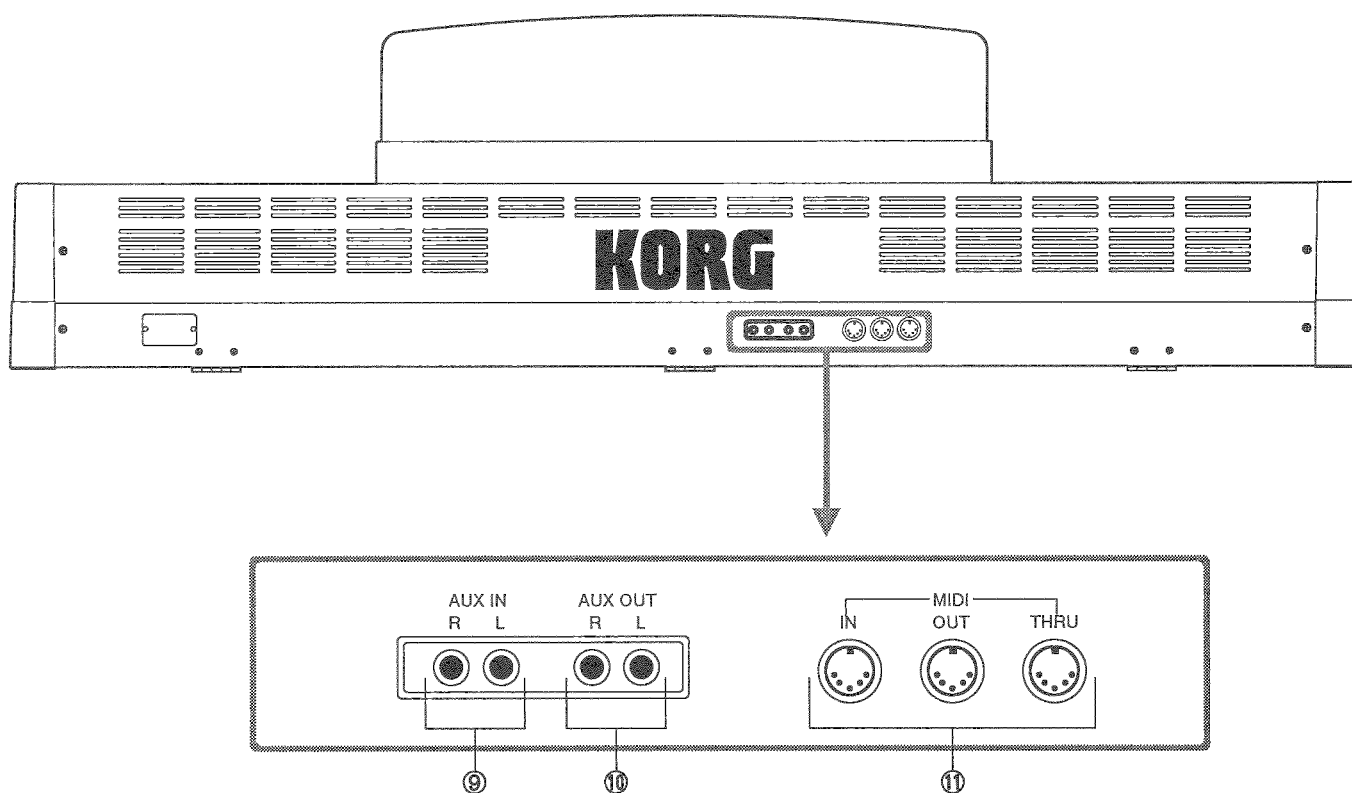
⑦テンポボリューム (23, 29ページ)

メトロノーム、レコーダーとデモ演奏のテンポを調節します。

⑧メトロノームスイッチ (29ページ)

メトロノームをスタート、ストップします。

リアパネル



⑨ AUX IN 端子 (L/R):

シンセサイザーやリズムマシンなどを接続して、C-56M 本体のスピーカーから音を出すための端子です。音量は、接続した楽器のボリュームで調節してください。

⑩ AUX OUT 端子 (L/R):

ご家庭のオーディオ機器などに接続して、ライブ感覚の演奏をお楽しみください。この端子と、オーディオ機器などの AUX IN 端子を接続します。また、演奏を録音したいときにも使用します。音量は、本機のボリュームで調節してください。

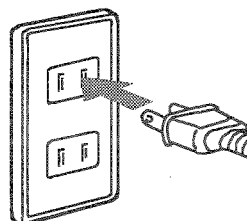
⑪ MIDI 端子 (IN/OUT/THRU):

シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシンなどの MIDI 機器を接続して、情報を交換するための端子です。別売の MIDI ケーブルを用いて接続してください。(P.31 ページ)

弾いてみましょう

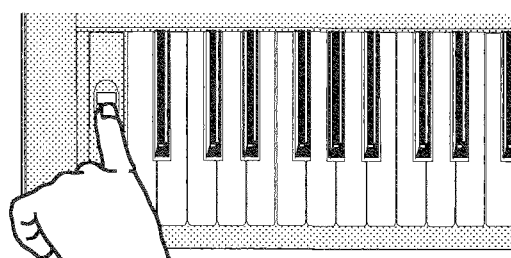
1. コンセントにプラグを差し込んでください

コンセントに AC電源コードのプラグを差し込んでください。



2. 電源スイッチを入れてください

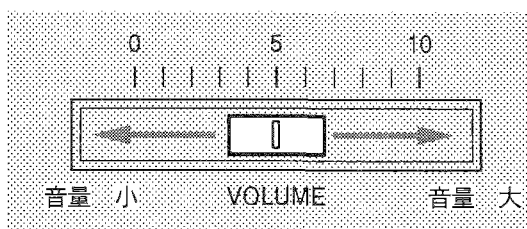
本体鍵盤左側の電源スイッチを押してください。まず初めに音色セレクター PIANO I のランプが点灯し、PIANO I の音色が自動的に選ばれます。約2秒後に音の出る状態になります。



3. ボリュームを調整してください

ボリュームスライダーで音量を調整します。スライダーを左いっぱい (0 の位置) に寄せた状態では、音が出ません。右へ移動するにしたがって音量が大きくなります。

- このボリュームスライダーは、C-56M 本体のスピーカーの音量と、ヘッドホン端子、リアパネルの AUX OUT 端子から出力される音量に作用します。



4. デモ演奏を聴いてみましょう

デモ演奏は1曲ずつ選択して聴くこともできますし、全曲を通して聴くこともできます。

- ① MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、START/STOP スイッチを押します。
- ② 聴きたいデモ演奏に対応する音色セレクターを1つ選択して押しますと、演奏が始まります。

デモ演奏を停止するには

デモ演奏中の場合は、START/STOP スイッチを押しますと、デモの演奏が止まり通常の状態に戻ります。

演奏が始まっていない (① の状態) ときは、START/STOP スイッチを2度押します。

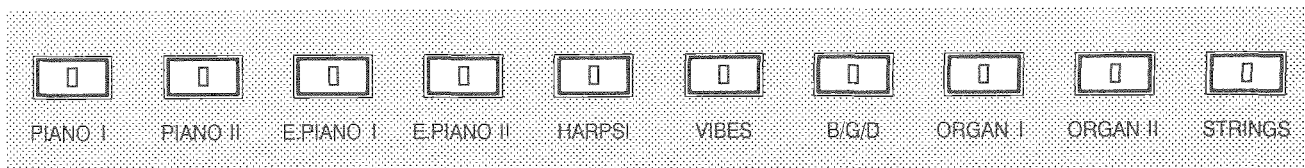
- 演奏を全曲通して聴くことや、繰り返し再生することができます。(P 16 ページ)

各音色セレクターに対するデモ演奏曲

音色セレクター	曲名
PIANO I	ベートーヴェン/エリーゼのために
PIANO II	ショパン/ノクターン Op. 9-2
E.PIANO I	ショパン/雨だれ
E.PIANO II	オリジナル
HARPSI	オリジナル
VIBES	オリジナル
B/G/D	オリジナル
ORGAN I	オリジナル
ORGAN II	オリジナル
STRINGS	リスト/コンソレーション第3番

音色を変えて弾いてみましょう

音色を変えたいときは、弾きたい音色のセレクターを押してください。

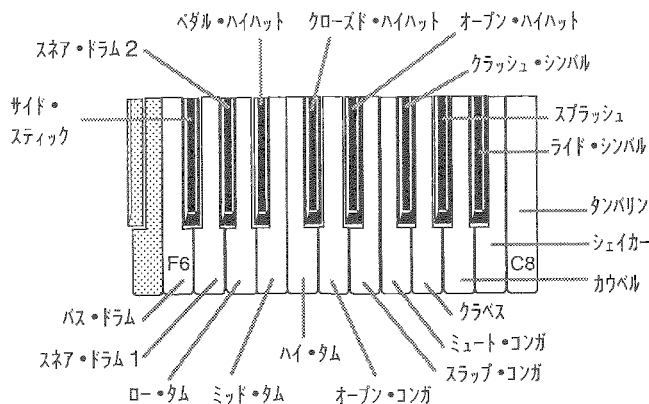


押されたセレクターのランプが点灯して、その音色が選択されたことを示します。

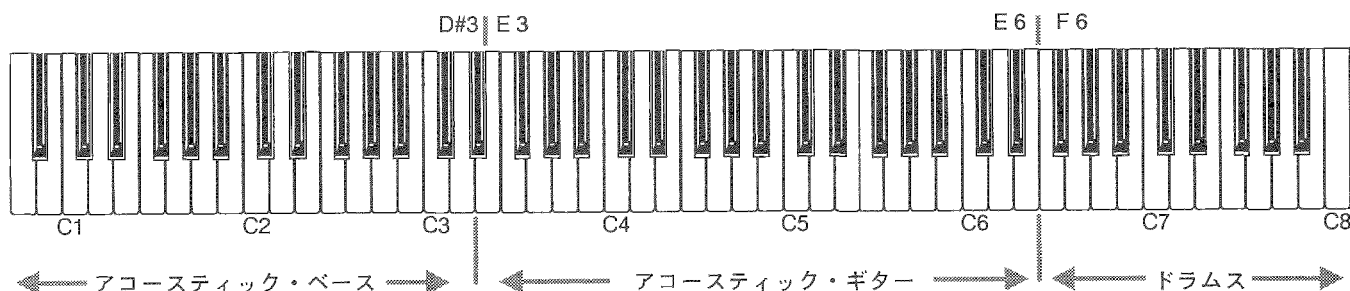
- PIANO I (ピアノ1) ……明るく華やかに響くアコースティックピアノの音色です。
- PIANO II (ピアノ2) ……重みのある、落ち着いた感じのアコースティックピアノの音色です。
- E.PIANO I (エレクトリック・ピアノ1) ……軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音色です。
- E.PIANO II (エレクトリック・ピアノ2) ……深く暖かみのあるエレクトリック・ピアノの音色です。
- HARPSI(ハープシコード) ……クラシックな趣きのある、リアルなハープシコードの音色です。
- VIBES(バイブ) ……まるやかなビブラフォンの音です。
- ※ B/G/D(ベース/ギター/ドラム) ……アコースティック・ベース、アコースティック・ギター、ドラムスの音色が、下の図のように鍵盤上に配列されています。
- ORGAN I (オルガン1) ……荘厳なパイプ・オルガンの音色です。
- ORGAN II (オルガン2) ……歯切れのよいジャズ・オルガンの音色です。
- ※ STRINGS(ストリングス) ……バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音色です。

※の音色は、打鍵のしかた(タッチ)によって、音の立ち上がりや減衰のしかたが変化します。歯切れよくスタッカートぎみに弾くと立ち上がりや減衰の素早い音になり、ゆったりとレガートぎみに弾くと立ち上がりや減衰のゆっくりした音になります。

※ドラムスの音色は、それぞれ次のように鍵盤と対応しています。



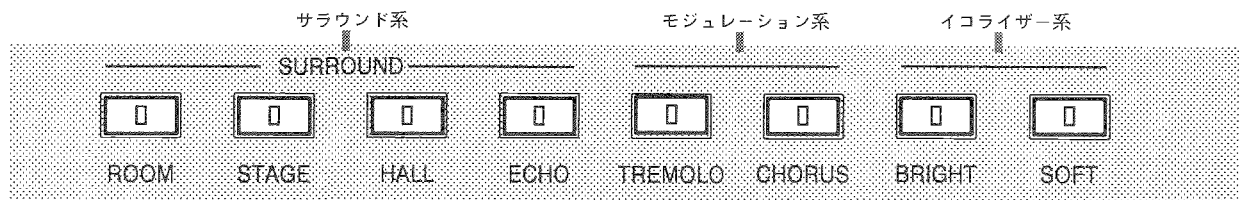
MIDI ノートナンバー	音色名 (楽器名)
89 (59H)	バス・ドラム
90 (5AH)	サイド・スティック
91 (5BH)	スネア・ドラム1
92 (5CH)	スネア・ドラム2
93 (5DH)	ロー・タム
94 (5EH)	ベダル・ハイハット
95 (5FH)	ミッド・タム
96 (60H)	ハイ・タム
97 (61H)	クローズド・ハイハット
98 (62H)	オープン・コンガ
99 (63H)	オープン・ハイハット
100 (64H)	スラップ・コンガ
101 (65H)	ミュート・コンガ
102 (66H)	クラッシュ・シンバル
103 (67H)	クラベス
104 (68H)	スプラッシュ
105 (69H)	カウベル
106 (6AH)	ライド・シンバル
107 (6BH)	シェイカー
108 (6CH)	タンバリン



注意：上記の配列は、トランスポーズ操作によって全体的に左右に移動します。
トランスポーズについては、17ページ『トランスポーズ機能』をご覧ください。

音色にエフェクトをかけてみましょう

C-56Mは、演奏にさらに多彩な色合いと臨場感をプラスするために、一つ一つの音色に対して様々なエフェクト（効果）を与えることができます。



エフェクトには大きく分けてサラウンド系、モジュレーション系、イコライザー系の3つの系統があり、それぞれの系統のなかから一つずつのエフェクトを選んで、最大3種類までのエフェクトを同時にかけることができます。

エフェクトセレクターを押すと、押されたセレクターのランプが点灯して、そのエフェクトが選択されたことを示します。

1. サラウンド系のエフェクト

サラウンドとは、音に残響をあたえ、心地よいサウンドにする効果のことです。4種類の臨場感あふれるゴージャスな響きをお楽しみください。

- **ROOM (ルーム)**
小さな部屋のなかで演奏したときの響きが得られます。
- **STAGE (ステージ)**
ホールのステージで演奏しているのと同じような響きが得られます。
- **HALL (ホール)**
ホールの客席で演奏を聞いているのと同じような響きが得られます。
- **ECHO (エコー)**
反響音が返ってくるように聞こえる効果が得られます。

2. モジュレーション系のエフェクト

モジュレーションとは、音にうねりを与え、広がりのある豊かなサウンドにする効果のことです。

2種類の効果が選べます。

- **TREMOLO (トレモロ)**
左右に音が行き交うような効果が得られます。
- **CHORUS (コーラス)**
音が広がるような効果が得られます。

3. イコライザー系のエフェクト

イコライザーは、音質を変化させて、サウンドに固さや柔らかさ、暗さ・明るさなどの雰囲気を与えます。2種類の効果が選べます。

- **BRIGHT (ブライ)**
高音と低音の強調された、きらびやかで迫力のある音になります。
- **SOFT (ソフト)**
高音を押えた、甘く丸い音になります。

エフェクトを解除したいときには

選択されている(ランプが点灯している)エフェクトセレクターを再び押しますと、ランプが消えて、そのエフェクトのかかっていない状態に戻ります。

- 音色セレクターで選択した音色の一つ一つにたいして、それぞれ個別にエフェクトを設定することができます。ある音色に対して一度エフェクトを選択しておく、以後その音色を選択するたびに、自動的に同じエフェクトが選択され、常にその音色に応じて設定されたエフェクトをかけながら演奏することができます。

- それぞれの音色に対して設定されたエフェクトは、電源を切ってもそのまま記憶され、新たに設定しなおすまでは変わりません。

二つの音色を同時に出してみましょう

C-56Mは、音色セクターによって選んだ音色に、さらにもう一つ好きな音色をつけ加えて、異なる2種類の音色で同時に演奏をすることができます。一つの鍵を弾くと、同時に二つの音色が鳴るよう(レイヤー・モード)にしたり、あるいは88の全鍵を、好きな位置から「高音側」と「低音側」の二つの領域に大きく分けて、それぞれの領域で別々の音色が鳴るよう(スプリット・モード)にすることができます。

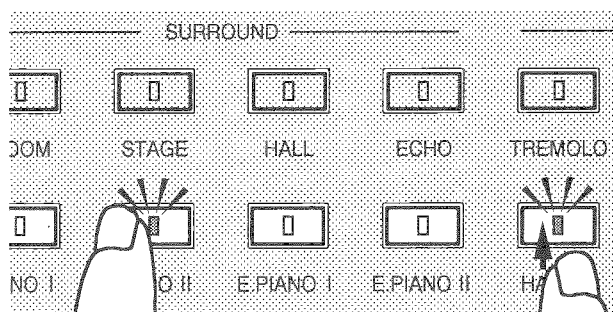
- レイヤー・モードやスプリット・モードに対して、通常の、全鍵にわたって一つの音色だけで鳴る状態のことを、シングル・モードと呼びます。

レイヤー・モード(一つの鍵から同時に2種類の音を出す)

同時に鳴らしたい2つの音色の、一方の音色の音色セクターを押えたまま、もう一方の音色の音色セクターを押してください。両方の音色セクターのランプが同時に点灯して、レイヤー・モードになったことを示します。

レイヤー・モードの状態では、同じ一つの鍵から、異なる2種類の音色が重なって出てきます。同時に16音まで発音します。

音色セクターをどれか一つだけ押しますと、そのままシングル・モードに移ります。



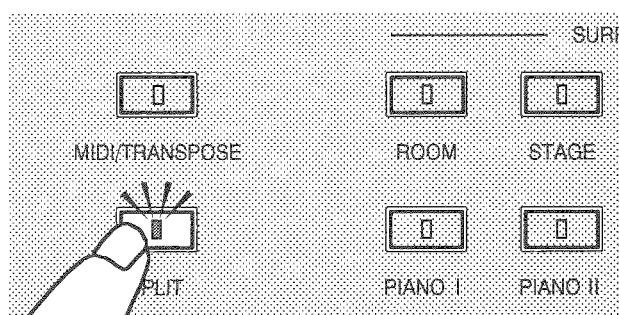
- スプリット・モード、またはシングル・モードに移ると、レイヤー・モードは自動的に解除されます。

スプリット・モード(高音鍵と低音鍵とで異なった音色を出す)

はじめに、シングル・モードの状態にしてにおいて、鍵盤の高音側で鳴らしたい音色を、音色セクターを押して選んでおきます。

SPLITスイッチを押してください。SPLITスイッチのランプが点灯して、スプリット・モードになったことを示します。

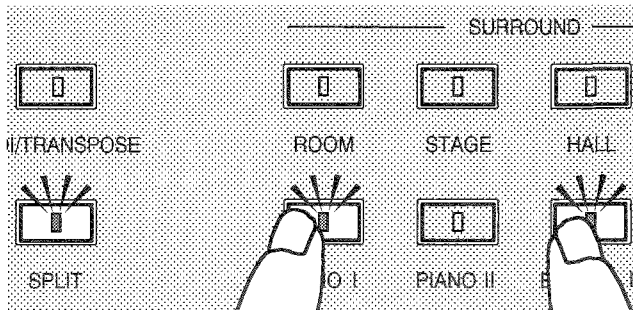
低音側の鍵盤は、以前スプリット・モードで設定されていた音色で鳴るようになります。音色を変更したいときは、次の **音色を変更するには** を参照してください。



- SPLITスイッチを再び押すと、ランプが消えて、スプリット・モードは解除されます。鍵盤上には、高音側に選択されていたほうの音が、シングル・モードとして残ります。

音色を変更するには

スプリット・モードで音色を変えたいときには、まず高音側で弾きたい音色の音色セレクターを押えておいて、低音側で弾きたい音色の音色セレクターをいっしょに押ししてください。両方のセレクターのランプが同時に点灯して、それぞれの音色が選択されたことを示します。シングル・モードのときのように、弾きたい音色の音色セレクターを一つだけ押しますと、高音側の音色だけを変えることができます。押されたセレクターのランプが点灯して、その音色が選ばれたことを示します。



注意

高音側と低音側の音色を入れ替えたいときは、一度高音側の音色をかえてから設定し直してください。

音色の領域を変更するには

スプリット・モードで高音域、低音域のそれぞれの音色の音域を±3オクターブ変えることができます。

●低音側の音色の音域変更

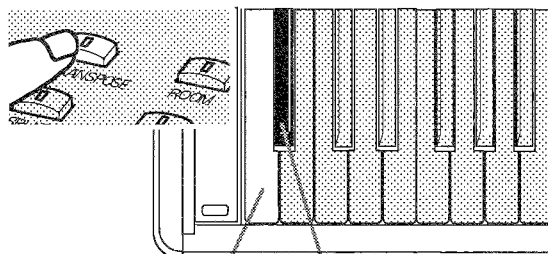
オクターブ・アップ

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらA#0の鍵を押します。

オクターブ・ダウン

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらA0の鍵を押します。

鍵を押すごとに1オクターブずつアップ、ダウンします。



A0 (オクターブ・ダウン) A#0 (オクターブ・アップ)

●高音側の音色の音域変更

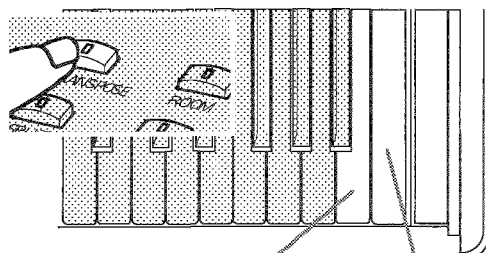
オクターブ・アップ

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらC8の鍵を押します。

オクターブ・ダウン

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらB7の鍵を押します。

鍵を押すごとに1オクターブずつアップ、ダウンします。



B7 (オクターブ・ダウン) C8 (オクターブ・アップ)

注意

MIDIに送信されるノート・ナンバーは、オクターブ・アップ、ダウンしても変更されません。

低音側、高音側のそれぞれの変更した音域は、それぞれの音色を変更したり、スプリット・モードを解除しても記憶されます。電源を入れた直後は音域を変更していない状態になります。

注意

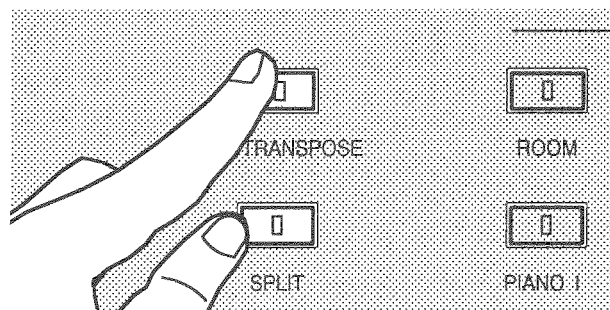
低音側の音色をオクターブ・ダウンしたり、高音側の音色をオクターブ・アップした場合に、低音側は下のオクターブが、高音側は上のオクターブがオクターブ・ダウン、アップした数だけ繰り返されます。

二つの音色の分かれる位置を変えるには

スプリット・モードにおいて、高音側と低音側の二つの音色が鍵盤上で分かれる境目の位置を、スプリット・ポイントと呼びます。スプリット・ポイントは、次の手順で変更することができます。

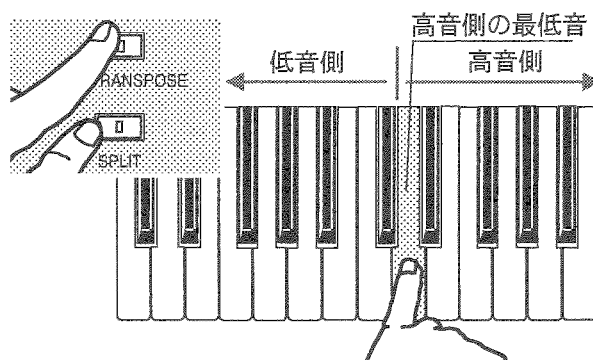
操作

1. MIDI/TRANSCOPEスイッチを押さえながら、SPLITスイッチを押さえます。



2. 両方のスイッチを押さえたまま、高音側の領域の最低音として設定したい音の鍵を押してください。

押した鍵よりも下の(低い)鍵盤が「低音側」の範囲として設定され、それよりも上の(高い)鍵盤が「高音側」の範囲として設定されます。



スプリット・ポイントは、スプリット・モードを解除して、シングル・モードやレイヤー・モードに移ったあとでも記憶されています。

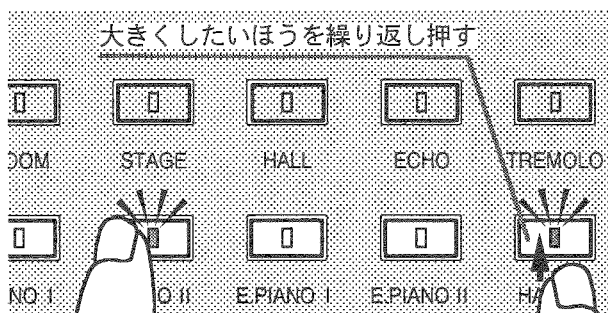
二つの音色のボリュームのバランスを変える

レイヤー・モードやスプリット・モードにおいて、選択されている2種類の音色の、音量のバランスを変えることができます。

選択されている二つの音色の音色セレクター(ランプが点灯しています)のうち、音量を小さくしたいほうのセレクターを押えたまま、音量を大きくしたいほうの音色セレクターを繰り返し押ししてください。

繰り返し押ししているほうの音色のボリュームが、徐々に大きくなってきます。好みのバランスになるように調節してください。

ボリューム・バランスは、スプリット・モードやレイヤー・モードを解除したあとでも記憶されています。



ペダルを使ってみましょう

ダンパー効果

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。アコースティックピアノのダンパーペダルを踏んだときと同じような効果があります。

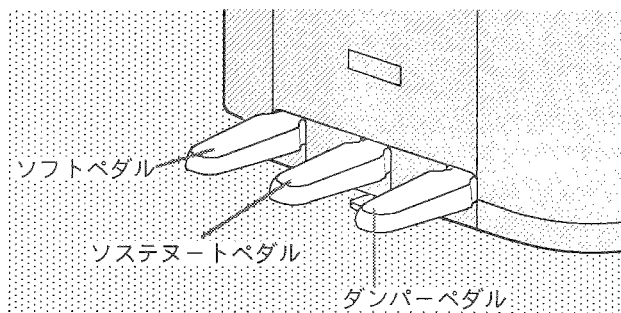
ソフト効果

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。アコースティックピアノのソフトペダルを踏んだときと同じような効果があります。

ソステヌート効果

任意の音に対してのみ、ダンパー効果をかけることができます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間は、その音だけが長く伸びます。

ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音にたいしては、ソステヌート効果はありません。

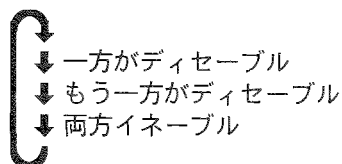


レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定

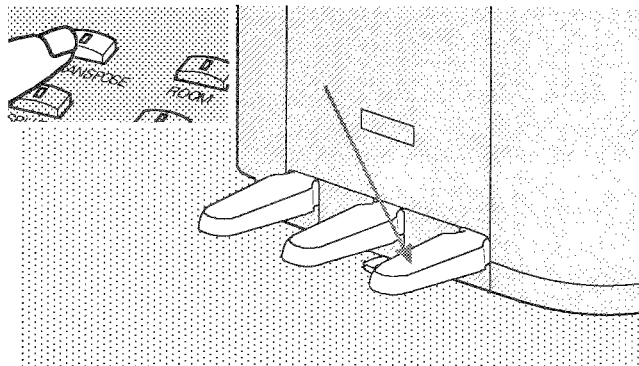
レイヤー・モードおよびスプリット・モードにおいては、選択されている二つの音色のうち、ペダルの効果がどちらの音色に対してかかるようにするかを、自由に設定することができます。

操作

1. MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながらダンパー・ペダルを踏むと、選択されている二つの音色セレクターのうち、ペダルの効果がかからないよう（ディセーブル）になっているほうのセレクターのランプは消えて、効果がかかるよう（イネーブル）になっているほうのセレクターのランプは点灯し続けます。
2. MIDI/TRANPOSE スイッチを押したままダンパー・ペダルを踏むたびに、ペダルの設定は



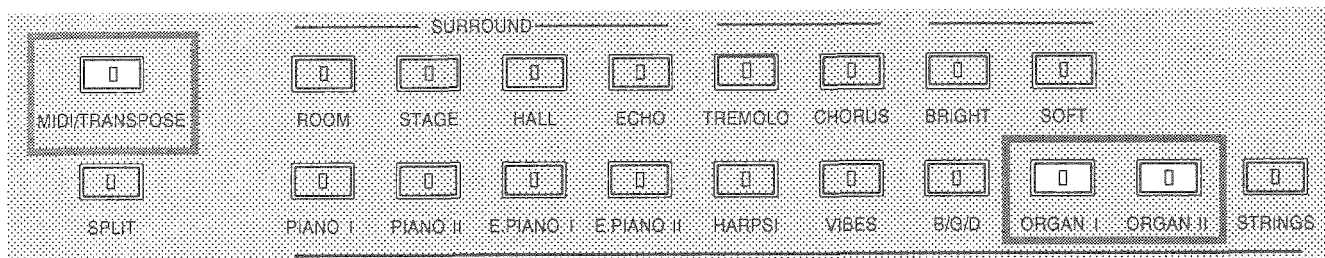
という順番で切り替わり、その状態は音色セレクターのランプで表示されます。ペダルを操作して、お好みの状態に設定しておいてください。



古典音律を使って演奏してみましょう

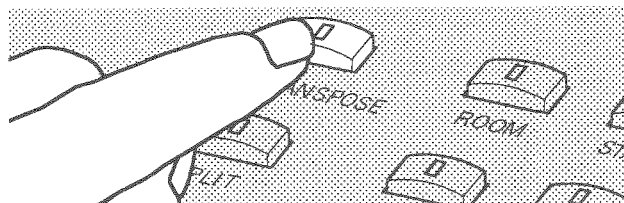
クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。C-56Mはこれらの曲の持つ本来の響きを再現するために、今日広く鍵盤楽器で用いられる平均律の他に、キルンベルガー (Kirnberger)、ヴェルクマイスター (Werckmeister) という2種類の古典音律を設定できます。

- 古典音律の設定には、MIDI/TRANSCOPEスイッチ、および音色セレクターのORGAN IとORGAN IIのスイッチを使います。

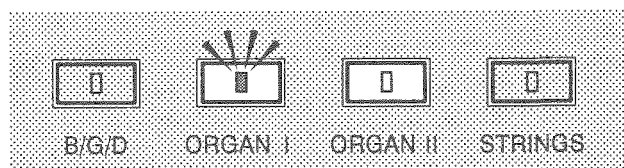


操作

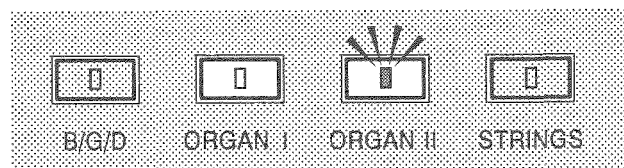
MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながら、音色セレクターのORGAN I、ORGAN IIを押してそれぞれの音律を選択します。セレクターのランプは、押すたびに点灯/消灯を繰り返します。



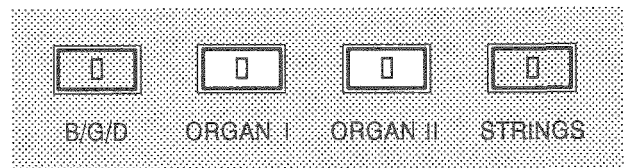
- キルンベルガー音律を選択するには
MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらORGAN Iを押して、ORGAN Iのランプを点灯させます。



- ヴェルクマイスター音律を選択するには
MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらORGAN IIを押して、ORGAN IIのランプを点灯させます。



- 平均律を選択するには
MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらORGAN IまたはORGAN IIの点灯している方のセレクターを押してランプを消灯させます。



- 電源を入れた直後は、自動的に平均律が選択されるようになっています。
- ここで設定された音律は、電源を切るまでは変更されません。

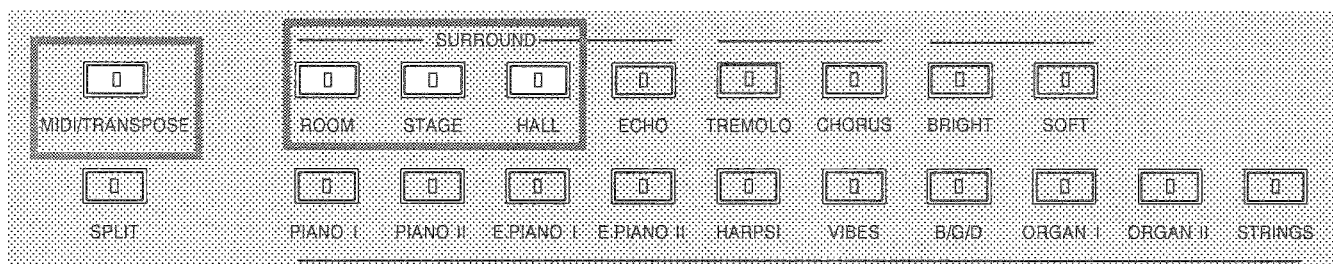
- **キルンベルガー**
18世紀初めにヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢスケールです。これは主にハーブシコードのチューニングに使用されています。例としては、J.S.バッハの2、3声のインベンションなどの演奏に向きます。
- **ヴェルクマイスター**
ドイツ人オルガニスト/音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによるヴェルクマイスターⅢスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由な移調を目的として考案されたものです。例としては、J.S.バッハ作曲の『平均律クラヴィーア曲集』などの演奏に向きます。
- **平均律**
今日の鍵盤楽器のほとんど全てがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列していますので、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

タッチコントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱を3段階に切換えることができます。ピアノシモからフォルテまで、弾く人の演奏スタイルにあった幅広い演奏表現に対応します。

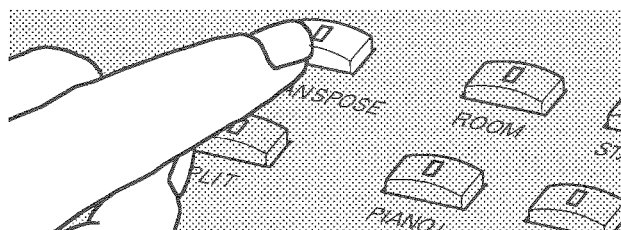
自然な感じのタッチ1、それよりも中くらいの強さで弾いた時に弾きやすさの出るタッチ2とタッチ3が設定できます。

- タッチコントロール機能の設定には、MIDI/TRANPOSEスイッチ、およびエフェクトセクターのROOM、STAGEとHALLのスイッチを使います。



操作

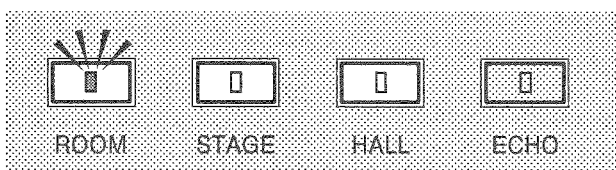
MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、各タッチコントロール設定スイッチを押します。



- **タッチ 1**

MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、ROOMスイッチを押します。

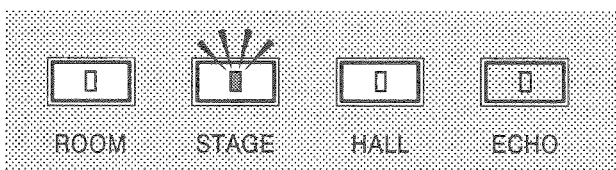
ROOMのランプが点灯します。



- **タッチ 2**

MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、STAGEスイッチを押します。

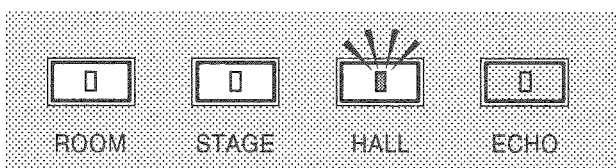
STAGEのランプが点灯します。



- **タッチ 3**

MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、HALLスイッチを押します。

HALLのランプが点灯します。



電源を入れた直後は、タッチ1に設定されます。

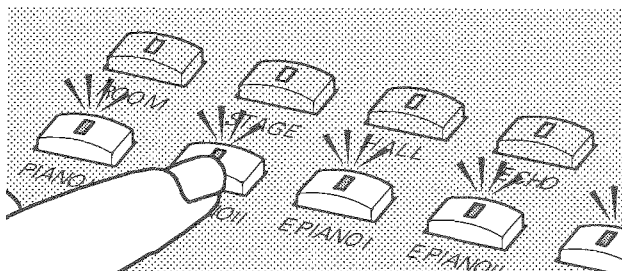
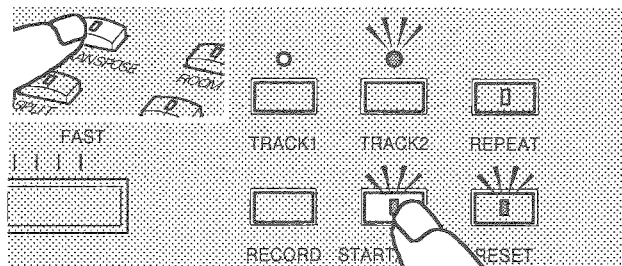
デモ演奏を聴いてみましょう

デモ演奏は1曲ずつ選択して聴くこともできますし、全曲を通して聴くこともできます。

1曲を選択して聴くには

操作

1. MIDI/TRANSPOSE スイッチを押しながら、START/STOP スイッチを押します。
2. 全ての音色セレクターのランプが点灯してデモ曲の選択ができる状態になります。(デモ・セレクト・モード)
- このときは、音色セレクターで音色を選ぶことはできません。
3. 聴きたいデモ演奏に対応する音色セレクターの1つを押すと選択された曲の演奏が始まります。
4. 1曲の演奏が終わると、2に戻ります。

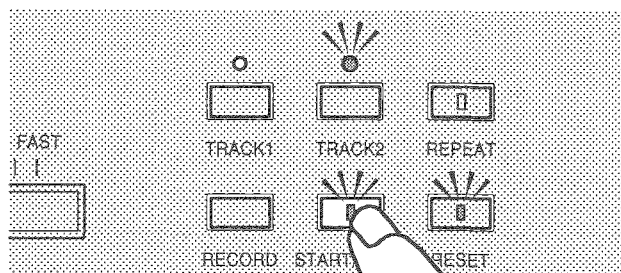


演奏を終了するには

- デモ演奏中の場合は、START/STOP スイッチを押すと、デモの演奏が止まり通常の状態に戻ります。
演奏が始まっていない(上記2. デモ・セレクト・モード)ときは、START/STOP スイッチを2度押します。

全曲を通して演奏させるには

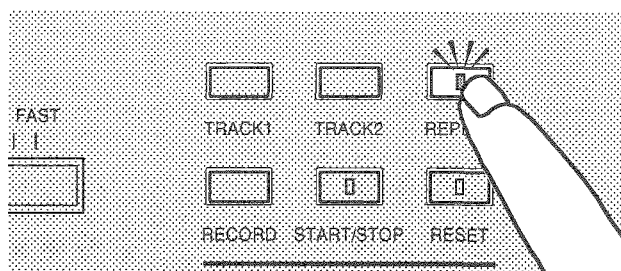
1. MIDI/TRANSPOSE スイッチを押しながら、START/STOP スイッチを押します。デモ・セレクト・モードの状態になります。
2. START/STOP スイッチを押すと全曲の演奏が始まります。
3. 全曲の演奏が終ると、デモ・セレクト・モードの状態に戻ります。
- デモ演奏中は、録音、およびバウンスの機能は使えません。



繰り返しデモ演奏をさせるには

操作

1. REPEAT スイッチを押します。
2. 上記の方法でデモ演奏をスタートさせます。
- 1曲を選択して演奏させたときは、1曲だけのリピート、全曲を通して演奏させたときは、全曲のリピートになります。

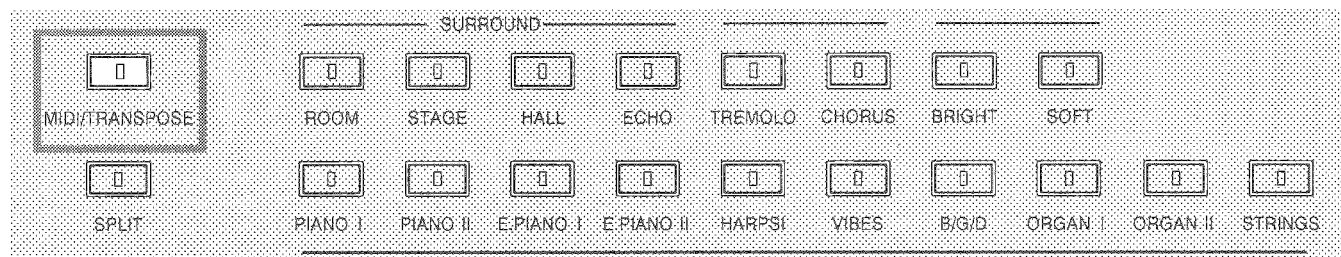


- 演奏を開始した後、REPEAT スイッチを押しても同じように繰り返し演奏させることができます。
- リピート区間の設定はできません。

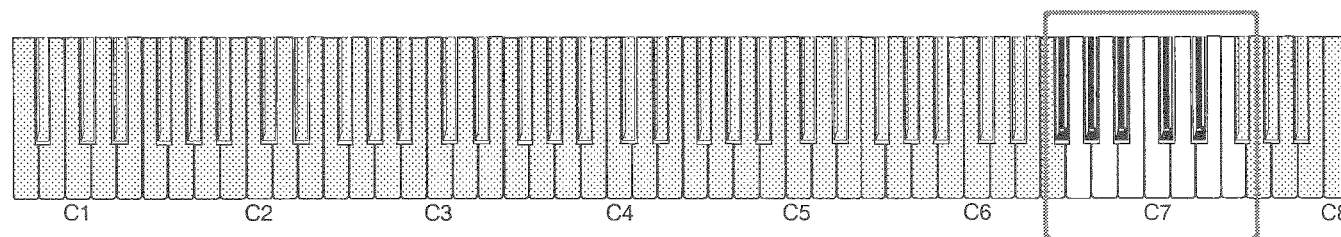
トランスポーズ機能

トランスポーズ機能とは、鍵盤を移調させる機能です。伴奏をするとき歌う人の声にあわせて移調したいときなどに大変便利です。上下それぞれに半オクターブまで変えることができます。

- トランスポーズの設定には、MIDI/TRANSCOPEスイッチと、鍵盤上のF#6からF7までの部分を使います。鍵盤で指定した音の高さがCとなるように、鍵盤全体の音の高さが移調されます。

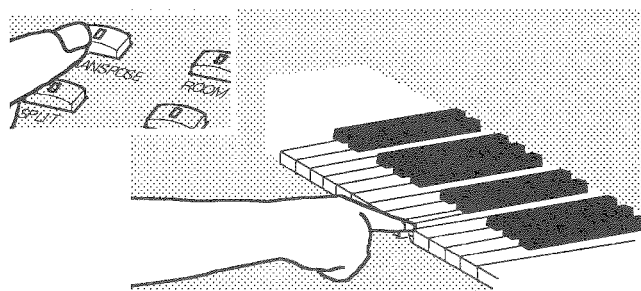


トランスポーズ設定用鍵盤 (F # 6~F7)



操作

フロントパネル上のMIDI/TRANSCOPEスイッチを押さえたままトランスポーズ設定用鍵盤を押えます。押えた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。



- C7以外の鍵を押えた場合には、MIDI/TRANSCOPEスイッチのランプが点灯して、トランスポーズ状態になっていることを示します。

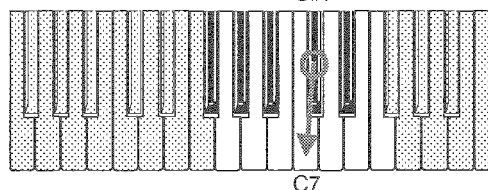
試してみましょう 曲の調子を半音上げて演奏したいときには

鍵盤全体の音の高さが半音だけ高くなるように、トランスポーズを設定してください。

すなわち、C7の鍵を押えたときにC#7の音が出てくるように、鍵盤全体の音の高さを移調させるわけです。

鍵盤全体の音を半音だけ高くする

↓
C7鍵からはC#7の音が出る
C#7

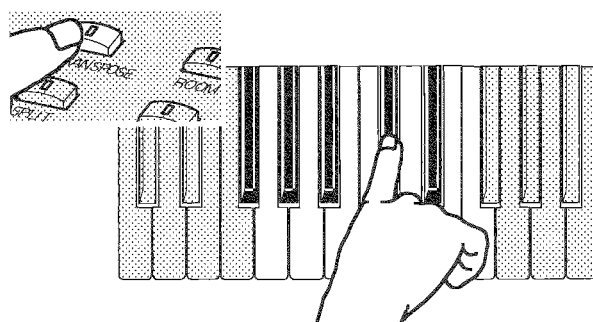


操作

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、C#7の鍵を押えてください。

MIDI/TRANSPOSEスイッチのランプが点灯します。

そのまま鍵盤を演奏すると、出てくる音の高さは、鍵盤よりも半音だけ高くなっています。

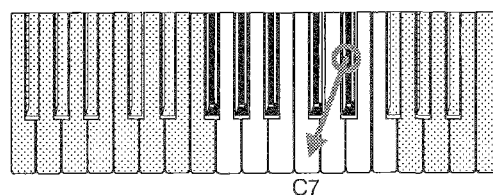
**試してみましょう** キーがB♭の曲をGの指使いに直して弾きたいときには

B♭の音は、Gの音からみて短3度の(半音3つ分だけ高い)音にあたります。

したがって、C7の鍵を押えたときには、C7よりも半音3つ分だけ高いD#7の音が出てくるように、鍵盤全体の音の高さを移調させればよいのです。

G鍵を押えたときにB♭の音が出る

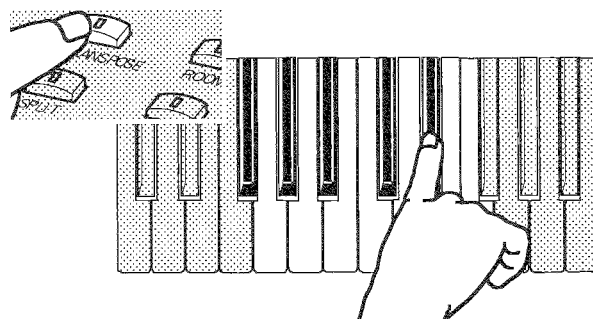
↓
C7鍵からはD#7の音が出る
D#7

**操作**

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながらD#7の鍵を押えてください。

MIDI/TRANSPOSEスイッチのランプが点灯します。

そのまま鍵盤でGの調子の曲を演奏すると、出てくる音は、B♭の調子になっています。

**設定したトランスポーズを解除したいときは****操作**

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押して、トランスポーズ用鍵盤は押えずにそのままスイッチから手を離してください。

MIDI/TRANSPOSEスイッチのランプが消えて、鍵盤は元の調に戻ります。

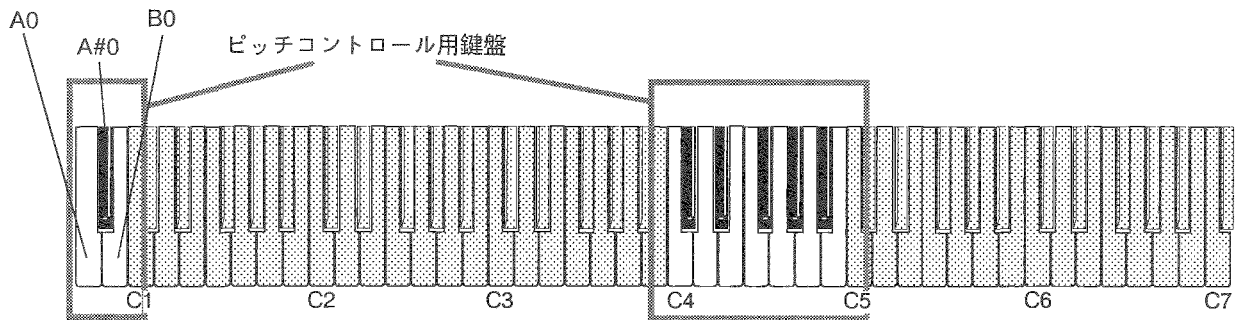
- トランスポーズの設定は、本体の電源を切ると自動的に解除されます。

ピッチコントロール

ピッチコントロールとは、ピッチ (音程) の微調整を行なう機能です。他の楽器とチューニングをあわせてアンサンブルを楽しむ時に便利です。

±50セント (1セントは半音の100分の1) まで変更することができます。変更したチューニングは、本体の電源を切ると自動的に元に戻ります。(A4 = 440Hz)

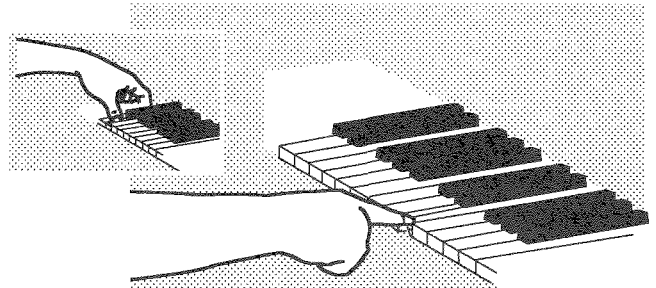
- ピッチの設定には、鍵盤上の A0、A#0、B0 の部分と、C4 から B4 までの部分を使います。



操作 ピッチを高くしたいときには

A0とB0の鍵を押えながら、C4からB4までの間の、いずれか一つの鍵盤を押えてください。

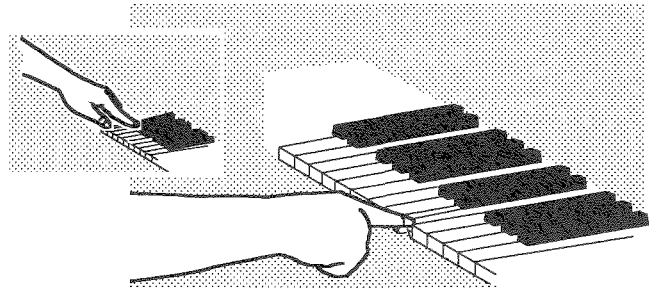
- いずれの鍵でも、一回押えるたびに約1セントずつピッチが高くなります。お好みのピッチになるまで繰り返し押してください。



操作 ピッチを低くしたいときには

A0とA#0の鍵を押えながら、C4からB4までの間の、いずれか一つの鍵盤を押えてください。

- いずれの鍵でも、一回押えるたびに約1セントずつピッチが低くなります。お好みのピッチになるまで繰り返し押してください。



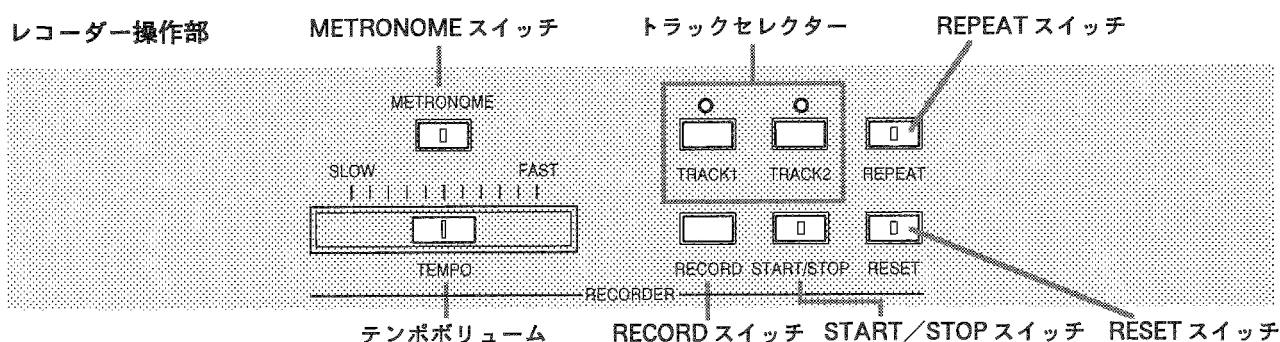
演奏を録音・再生してみましょう

C-56Mは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生できるレコーダー機能を搭載しています。

このレコーダーは2トラック方式になっており、ちょうど並行して走る2本の録音テープのようなものです。

例えば一方のトラックにお手本となる曲を録音しておいて、もう一方のトラックに自分の演奏を録音し、両方を同時に聴き比べるといった使い方や、連弾のふたり分のパートを、それぞれのトラックに分けて録音して、一方のパートを練習する、といった使い方ができます。これらの録音した演奏は、音のピッチは変えることなく再生するテンポを変えることができますので、遅めのテンポで演奏を録音しておいて、それを録音したときと異なる速さで再生するといった操作も可能になります。

また、後述するバウンス機能を使えば、はじめに録音しておいた演奏に、後から別の音色で、異なる演奏を付け加えることで、一人でオーケストラのようなアンサンブルも録音することができます。



●トラックセレクター

演奏を録音、再生するには、まず TRACK1 または TRACK2 スイッチを押し、トラックを選択します。

再生するには片方あるいは両方のセレクターを、録音するには RECORD スイッチを押しながらそれぞれのセレクターを押します。

トラックの録音、再生をスタートするには、START/STOP スイッチを押します。トラックに録音する場合は、鍵盤を押すことによってもスタートすることができます。録音時には TRACK スイッチのランプは赤色に点灯し、再生時には TRACK スイッチのランプは緑色に点灯します。レコーダーの容量の 90% を越えて録音すると、TRACK セレクターのランプが点滅し始めます (22 ページ)。また、TRACK1 と TRACK2 の演奏データを一つにまとめて TRACK2 に納めることができます。このときは、両方のランプが赤色と緑色に点滅し始めます (28 ページ)。

●METRONOME スイッチ

メトロノームをスタート、ストップします。

メトロノームはレコーダー操作時以外に、通常の鍵盤演奏でも使用できます (29 ページ)。

●RESET スイッチ

それぞれのトラックの最初の位置に戻します。

曲の最初の位置以外では RESET スイッチのランプが点灯します (22 ページ)。

●RECORD スイッチ

RECORD スイッチを押しながら、どちらかの TRACK セレクターを押すと、トラックは演奏を録音できる状態になります。トラックの録音をスタートするときは START/STOP スイッチを押すか、あるいは鍵盤を弾いてください。

指定した TRACK スイッチのランプが赤色に点灯し、トラックに録音できることを示します。

●START/STOP スイッチ

START/STOP スイッチを押すとトラックの録音または再生をスタート、ストップします。

録音または再生中にトラックを一時停止させることもできます。

レコーダーが録音、再生を始めると、START/STOP スイッチのランプが点灯します。

●テンポボリューム

テンポボリュームは再生時のテンポを変更します(ピッチは変化しません)。テンポは左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

●REPEATスイッチ

REPEATスイッチを押すと、曲を1区間内で繰り返し再生します。

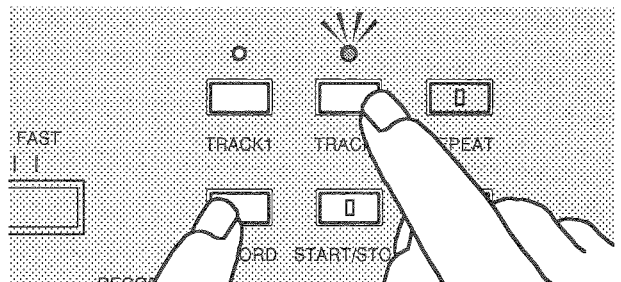
演奏を録音してみましょう

録音するトラックを選択して演奏を録音してみましょう。

操作

録音するトラックを選択します。

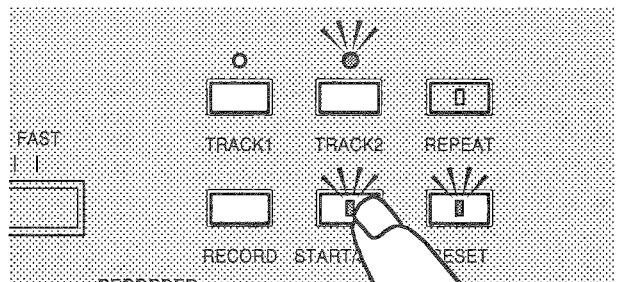
1. RECORDのスイッチを押しながら、TRACK 1またはTRACK 2のどちらかのセレクターを押してください。
2. 押されたほうのセレクターの上のランプが赤く点灯して、そのトラックが録音用トラックとして選択されたことを示します。



3. START/STOPスイッチを押すか、もしくは鍵盤で演奏を始めると、録音が始まります。

録音している間は、START/STOPスイッチのランプと、RESETスイッチのランプが点灯しています。

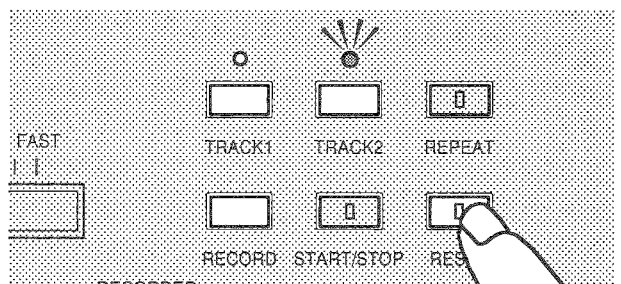
4. START/STOPスイッチをもう一度押しますと、録音が停止します。



録音を停止すると、START/STOPスイッチのランプが消えます。

● 録音をしている最中に、音色を切り替えることはできません。

- 曲の初めから録音をもう一度やり直したいときは、RESETスイッチを押します。RESETスイッチのランプが消えて、レコーダーは最初から録音できる状態に戻ります。あとは、1からの手順にしたがって、もう一度初めから録音をやり直すことができます。



- 一度録音を停止した箇所から、つづけて曲の続きを録音したいときには、そのままRESETスイッチを押さずに、1からの手順に従って録音します。

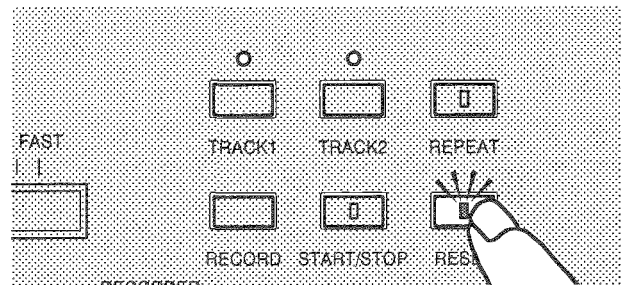
- 録音を停止しているときに、音色を切り替えて、新しい音色で曲の続きを録音した場合、この曲を再生しても、曲の途中で自動的に音色が変わることはありません。かならず、録音を始める前に選択されていた音色で、最後まで再生されます。

リセットスイッチについて

RESETスイッチのランプが点灯しているときは、レコーダーが録音中や再生中、または曲の最初の位置以外で停止した状態になっていることを示しています。

このランプが点灯した状態のまま録音や再生を行いますと、レコーダーは一旦停止していたその箇所から録音・再生を再開します。

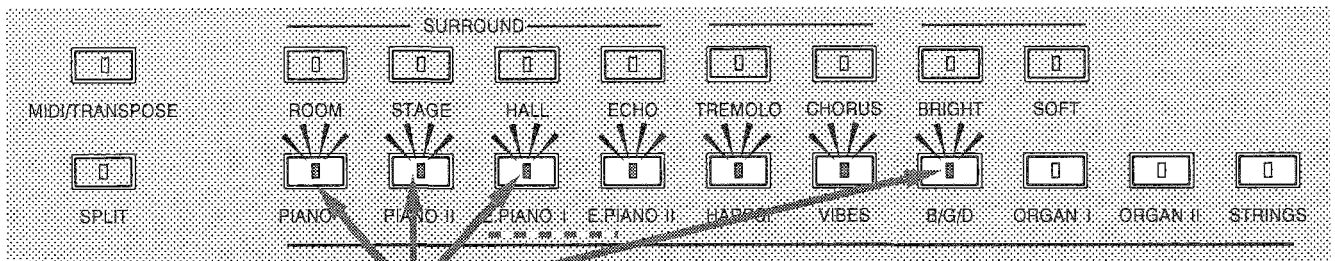
RESETスイッチを押してランプが消えますと、レコーダーは曲の最初の位置に戻り、初めから録音や再生をやり直すことができます。



あとどのくらい録音できるか知りたいときには

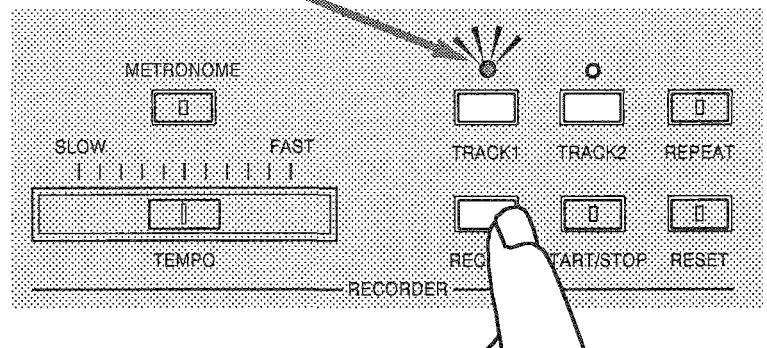
RECORDスイッチを押し続けると、音色セクター上に、いままで録音された演奏データの量が、セクターのランプの点灯する数で表示されます。録音を続けるにつれて、ランプの点灯する数が多くなり、C-56Mの記憶装置（メモリー）のなかに、引き続き録音できる領域が少なくなったことを示します。点灯していないランプがいくつあるか見ることによって、あとどのくらい録音できるのか、おおよその見当をつけることができます。

録音できる領域が、メモリーの残り10パーセント以下になると、トラックセクターの上のランプが赤く点滅します。



音色セクターのランプが、録音されたデータの量を示します。

メモリーの残量が10パーセント以下になると、赤いランプが点滅します。



録音した演奏を聴いてみましょう

操作

1. はじめに、TRACK 1とTRACK 2のうち、再生したいほうのトラックセクターを押します。
 押されたほうのトラックセクターの上のランプが緑色に点灯して、そのトラックが再生用トラックとして選択されたことを示します。

● 両方のトラックを選択して、二つの演奏を同時に再生させることもできます。

2. RESETスイッチのランプが点灯しているときは、RESETスイッチを押します。

RESETスイッチのランプが消えて、曲の初めから再生できる状態になります。

3. START/STOPスイッチを押しますと、選択されたトラックに録音されている演奏の再生が始まります。

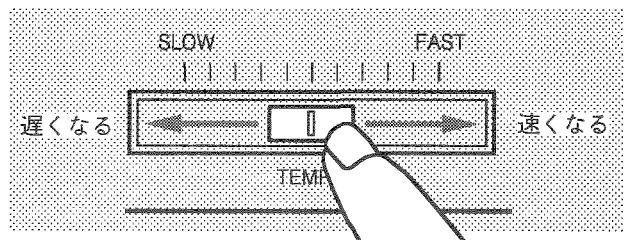
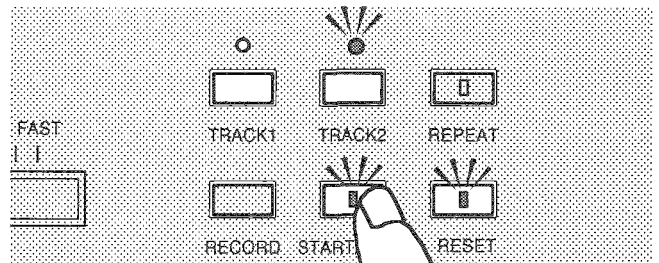
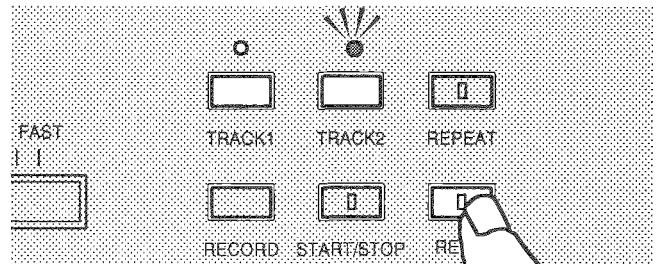
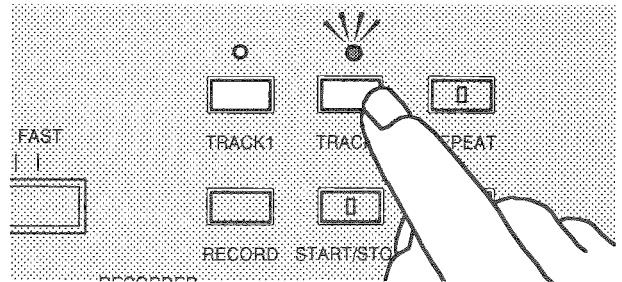
再生している間は、START/STOPスイッチとRESETスイッチのランプが点灯しています。

● テンポボリュームを操作して、再生するテンポを変えることができます。テンポボリュームは、左に動かすと遅く、右に動かすと速くなります。

4. 再生を途中で一旦止めるには、START/STOPスイッチをもう一度押してください。

START/STOPスイッチのランプが消えて、再生が停止します。

● 続きを再生したいときは、そのままもう一度START/STOPスイッチを押してください。一旦停止した箇所から再び演奏の続きが始まります。



● もう一度、曲の最初から再生したいときは、RESETスイッチを押してから、START/STOPスイッチを押してください。

注意

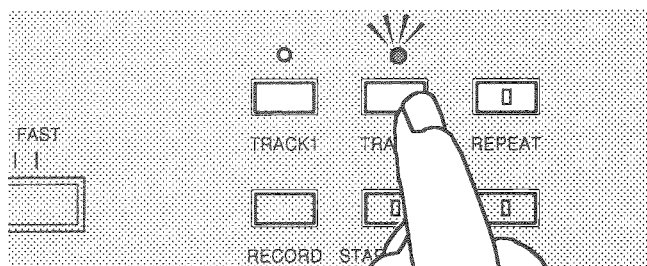
レコーダーで再生されている演奏データは、MIDI OUTからは出力されません。

リピート演奏を行うには

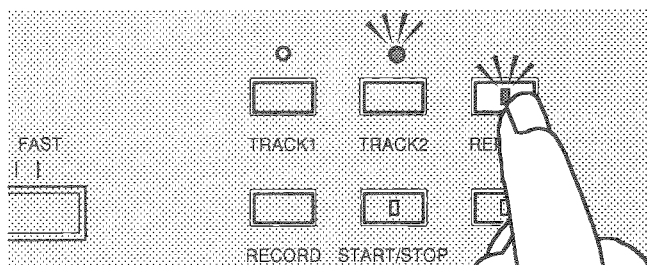
録音した曲中の任意の範囲内、あるいは曲全体を繰り返し再生することができます。これは難しい曲や、特に難しい部分を繰り返し練習する場合などに大変便利です。

操作

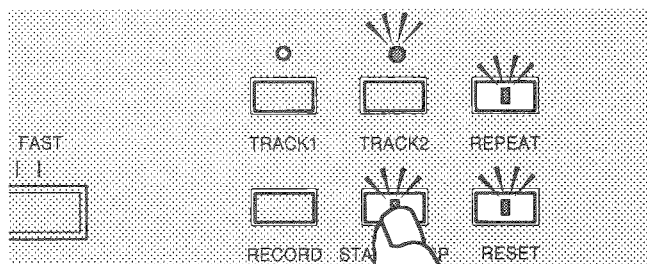
1. リピート演奏させたいトラックを再生モードにします。ランプが緑色に点灯します。



2. REPEATスイッチを押します。ランプが点灯します。



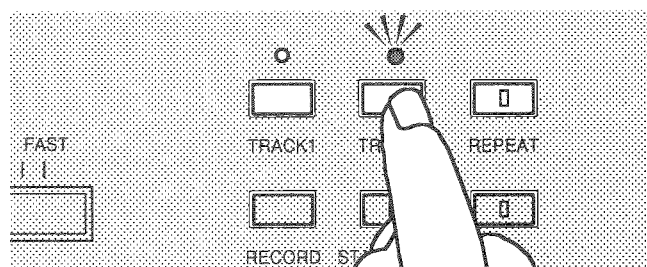
3. START/STOPスイッチを押すと、リピート区間を設定している場合はその区間を、設定していない場合は録音したトラック全体をリピートします。



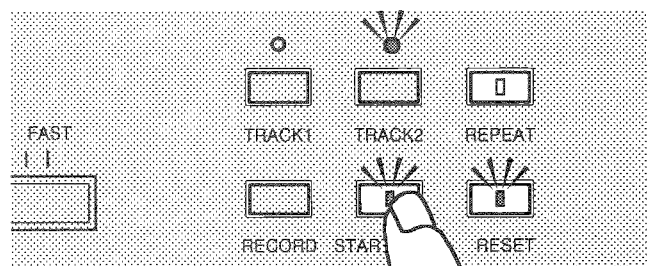
リピート区間の設定

操作

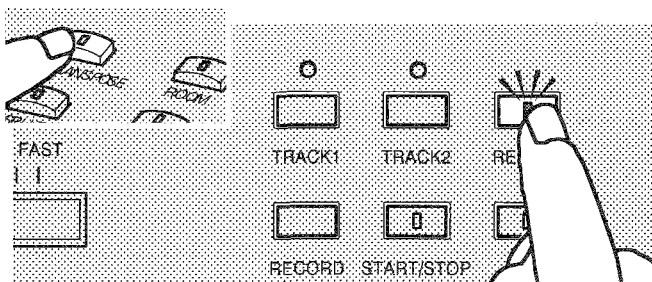
1. リピートしたいトラックを再生モードにします。



2. START/STOPスイッチを押して再生状態にします。

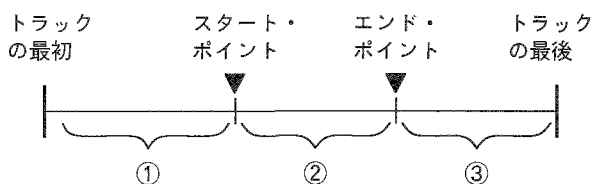


3. リピートさせたいところで MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、REPEAT スイッチを押します。REPEAT スイッチのランプが点灯し、スタートポイントが設定されました。



4. スタートポイントを設定した後、再生を続けていき、リピートエンドしたいところで、もう一度 MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら REPEAT スイッチを押します。REPEAT スイッチのランプが消灯し、エンドポイントが設定されます。エンドポイント設定後、自動的に指定区間のリピート演奏が開始されます。

- 区間が設定されている場合に再び指定区間のリピート演奏に入るとき、REPEAT スイッチを押す位置により次のように指定区間のリピートが開始されます。



①の区間内のとき、現在位置からエンドポイントまで演奏してから指定区間のリピート演奏が開始されます。

②の区間内のとき、現在位置からエンドポイントまで演奏してから指定区間のリピート演奏が開始されます。

③の区間内のとき、現在位置からトラックの最後まで演奏してからトラックの最初に戻り、エンドポイントまで演奏してから指定区間のリピート演奏が開始されます。

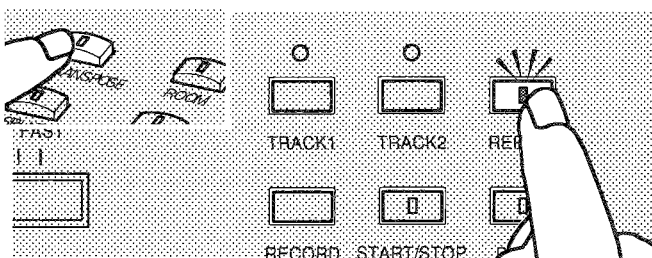
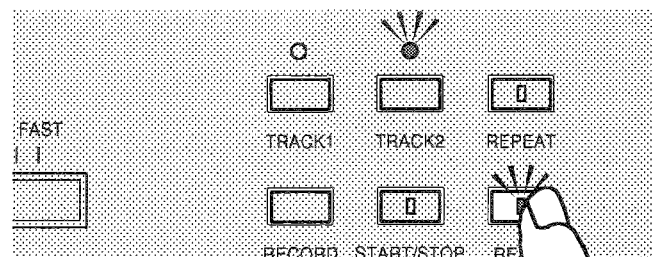
RESET スイッチを押したときは、トラックの最初にもどり、エンドポイントまで演奏してから指定区間のリピート演奏が開始されます。

リピート区間の解除

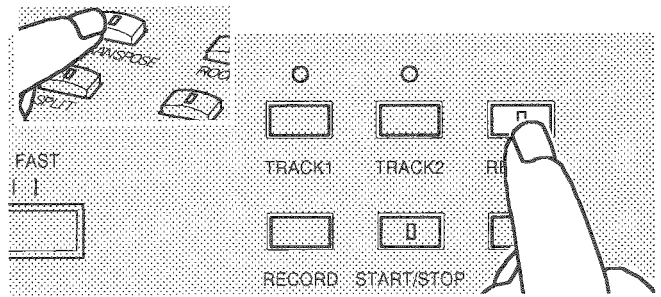
設定してあるリピート区間を解除して、トラック全体をリピートさせます。

操作

1. STOP 状態にして RESET スイッチを押します。
2. MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら REPEAT スイッチを押します。REPEAT スイッチのランプが点灯します。



3. STOP状態のままさらにもう一度MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながらREPEATスイッチを押します。REPEATスイッチのランプは消灯し、リピート区間の設定が解除されます。
- リピート区間の設定は、TRACK1と2のそれぞれ1区間ずつ設定できます。
 - 設定したリピート区間は、電源を切っても記憶されています。



- 録音した(または、録音しなおした)後のトラックや、バウンスした後のTRACK1と2は、以前設定されたリピート区間があっても解除されます。

いろいろな録音機能

一方のトラックを再生しながら、もう一方のトラックに録音するには

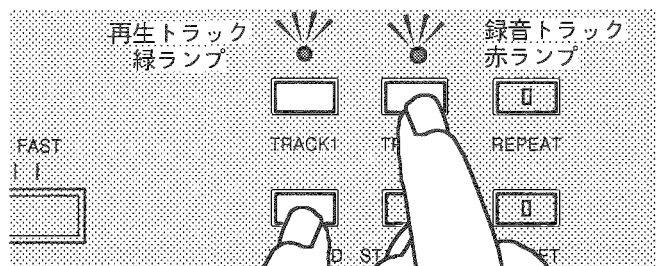
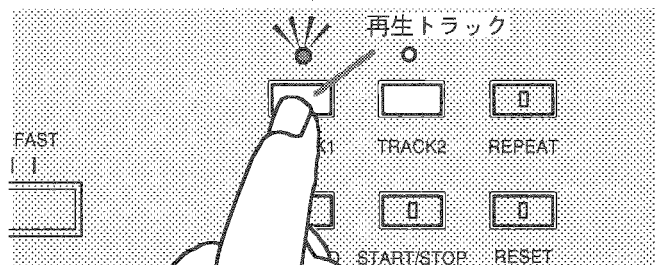
2つのトラックの一方を録音状態に、一方を再生状態しておきますと、あらかじめ一方のトラックに録音しておいたパートを聴きながら、それに合わせて新たに別のパートを鍵盤で演奏し、それをもう一方のトラックに録音することができます。はじめに左手のパートだけを一方のトラックに録音しておいて、それに合わせて右手のパートを練習したりすることもできますし、同じようにして、一人で連弾の練習をしたりすることもできます。

まず、**演奏を録音してみよう**の手順にしたがって、トラックのどちらか一方に、片方のパートを録音しておきます。

操作

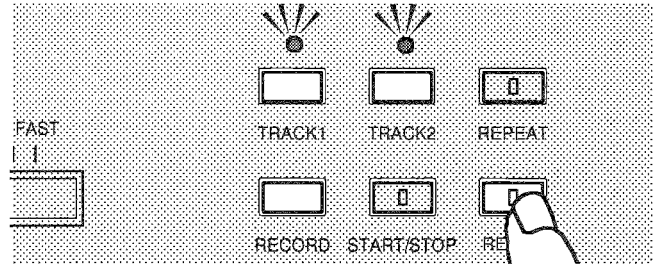
1. あらかじめ録音をしておいたほうのトラックのセレクターを押して、そのトラックを再生用トラックとして選択しておきます。
2. RECORDスイッチを押しながら、もう一方のトラックのセレクターを押して、録音用トラックに設定します。

再生用トラックのセレクターの上には緑色のランプが、録音用トラックのセレクターの上には赤いランプが点灯しています。



3. RESETスイッチのランプが点灯しているときは、RESETスイッチを押します。

RESETスイッチのランプが消えて、曲の初めから演奏できる状態になります。



4. START/STOPスイッチを押しますと、一方のトラックが再生されると同時に、もう一方のトラックに演奏を録音できる状態になります。再生されている演奏を聴きながら、録音したい部分を演奏してください。

- 録音を途中で停止したり、また続けて録音を再開したり、初めから録音をやり直すときの操作は、通常の録音のときと同様です。**演奏を録音してみましょう**の手順を参照してください。

- 初めに録音したときと、あとから録音したときとで、それぞれのトラックに、別々の音色を設定しておいてもかまいません。このような設定をしておくと、最後に両方同時に再生するときも、それぞれの音色で同時に再生されます。ただし、同時に発音する音の数は、両方の音色を合わせて32音までとなります。

曲の最後に新たに演奏を付け足したいときは

すでに最後まで録音を終えた曲の、一番おしまいの部分から続けて録音を付け足したいときなどのために、曲の最後まで普通に再生して、そこから録音状態に切り替える、という操作が可能です。

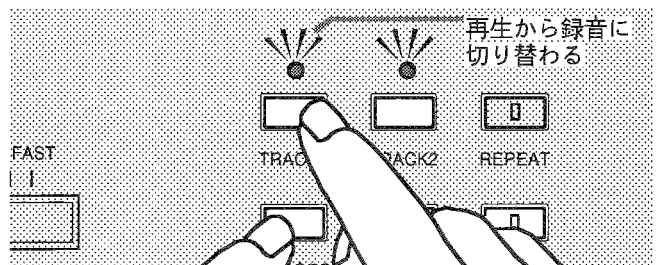
操作

1. まず、**録音した演奏を聴いてみましょう**の手順にしたがって、録音した曲の再生をはじめます。曲の最後まで来ると、START/STOPスイッチのランプが消えて、再生が停止します。

2. RESETスイッチのランプが点灯した状態のまま、RECORDスイッチを押しながら、トラックセレクターを押します。セレクターの上に点灯しているランプが緑色から赤に変わって、再生から録音に切り替わったことを示します。

3. もう一度START/STOPスイッチを押すか、もしくは鍵盤で演奏を始めると、曲の終わった箇所から、そのまま録音が始まります。

- 録音状態に入って以降の操作は、通常の録音のときと同様です。**演奏を録音してみましょう**の手順を参照してください。



注意

再生している曲の途中で、START/STOPスイッチを押して一時停止して、録音に切り替えた場合、一時停止した位置から正しく録音が始まらないことがあります。

注意

曲を最後まで再生し終って停止したところで、音色を切り替えて、新しい音色で曲の続きを録音した場合、この曲を再生しても、新しく付け足された部分から自動的に音色が変わることはありません。

かならず、録音を始める前に選択されていた音色で、最後まで再生されます。

二つのトラックの演奏データを、一つのトラックにまとめたいときは

二つのトラックに別々に録音した演奏データを、一方のトラックにまとめて録音し直すこと(バウンス操作)ができます。データを一方のトラックにまとめると、もう一方のトラックは自動的に空白の状態に戻り、新たにそこへ録音することができるようになります。

また、空いたほうのトラックへ新たに録音した演奏データと、すでにバウンスによって一つにまとめられたあとのデータを、さらにバウンスして、全部の演奏データを一つのトラックにまとめることもできます。これを繰り返して、一人で3重奏、4重奏……を楽しむこともできます。

初めに、両方のトラックにそれぞれ演奏を録音しておきます。録音のしかたについては、**演奏を録音してみましよう**を参照してください。

操作

1. トラックセレクターの TRACK 1 と、TRACK 2 とを同時に押します。

二つのセレクターの上のランプが、赤と緑色に交互に点灯します。

2. START/STOP スイッチを押します。

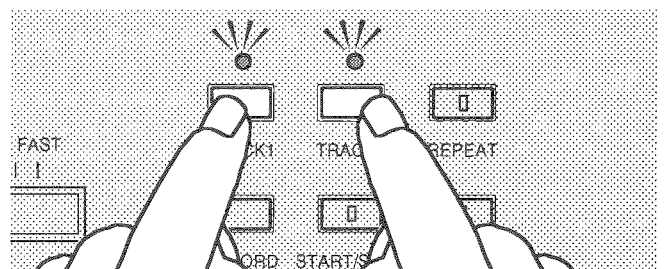
バウンスが行われ、TRACK 1 と TRACK 2 に記録されていた演奏データは、一つにまとめられて TRACK 2 に納められます。TRACK 1 は、なにも録音されていない空白の状態に戻ります。

- 空いた TRACK 1 にあらためて演奏を録音して、その演奏データを再び TRACK 2 のデータへバウンスすることもできます。

TRACK 2 の演奏を聴きながら、新たに演奏したものを TRACK 1 に録音して(『一方のトラックを再生しながら、もう一方のトラックに録音するには』を参照してください)、バウンスして全部のデータを TRACK 2 にまとめる、という手順を繰り返していけば、いくつものパートを別々に録音して行き、最後にその全てを同時に再生させて、大がかりなピアノ・アンサンブルを一人で作り上げる、といった楽しみ方もできます。

注意

バウンス操作は、14回まで繰り返すことができます。すなわち、一つのトラックに、15までの演奏データをまとめることができるわけです。



- 二つのトラックに別々の音色で録音されていた演奏データをバウンスして、一つのトラックにまとめたデータを再生するときでも、それぞれのパートは、録音されたときと同じ別々の音で同時に再生されます。

バウンスを繰り返していくつもの音色の演奏データを一つにまとめたときでも、それぞれのパートは録音されたときと同じ音で再生されます。

ただし、同時に発音される音の数は全ての音色を合わせて32音までです。

注意

バウンスして一つにまとめた演奏データを、再生途中で一時停止して、録音に切り替えることはできません。ただし、曲の最後で録音に切り替えて、演奏を付け足すことは可能です。『曲の最後に新たに演奏を付け足したいときは』を参照してください。

- C-56M のレコーダのテンポに合わせて、リズムマシンやシーケンサーなどの外部 MIDI 機器を自動演奏させることができます。くわしくは、**外部 MIDI 機器との同期**を参照してください。

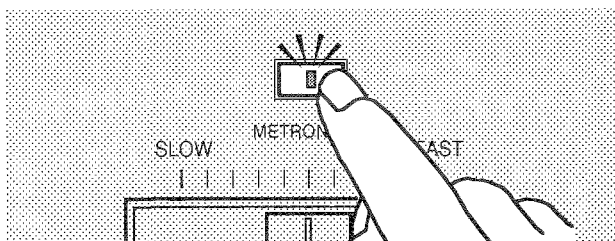
メトロノーム機能

C-56Mには、テンポや拍子を音で知らせるメトロノーム機能があります。

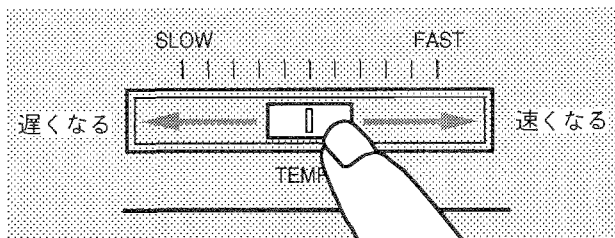
操作

1. METRONOMEのスイッチを押してください。

スイッチのランプが点灯して、メトロノームがスタートします。



● メトロノームのテンポは、レコーダーのテンポボリュームで変化させることができます。ボリュームを左に動かすと遅くなり、右に動かすと速くなります。

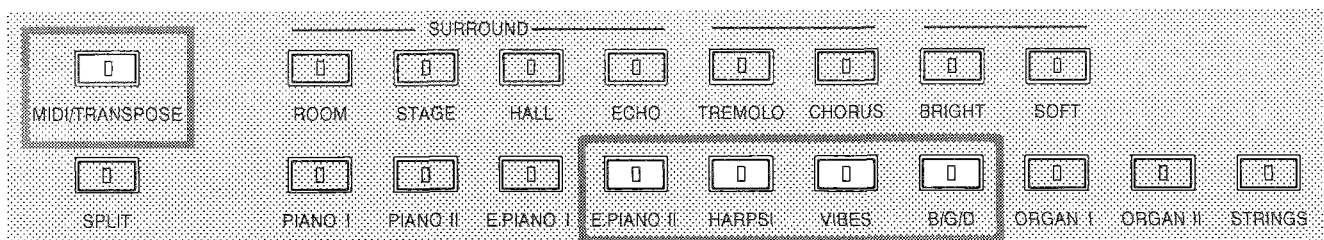


2. もう一度 METRONOMEのスイッチを押しますと、スイッチのランプが消えて、メトロノームがストップします。

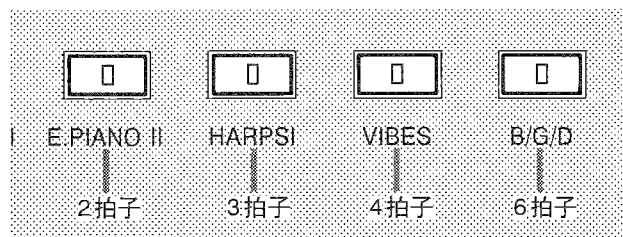
注意

メトロノームをオンにすると最大同時発音数は31音になります。

メトロノームの拍子を設定するには



メトロノームの拍子を設定するには、フロントパネル上の MIDI/TRANPOSE スイッチと、音色セレクターの E.PIANO II、HARPSI、VIBES、B/G/Dの部分を使います。2拍子、3拍子、4拍子、6拍子のなかから選んで設定することができます。



操作

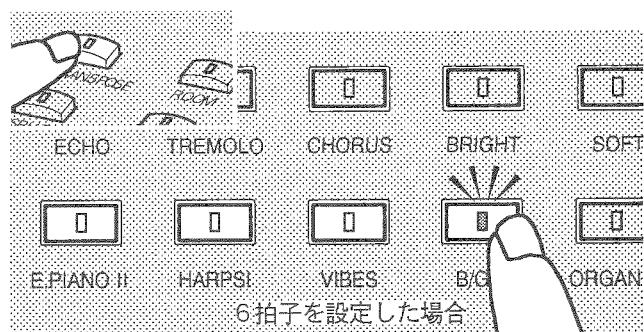
1. MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、設定したい拍子に対応した音色セレクターを押します。

押されたセレクターのランプが点灯して、メトロノーム音の設定された拍子ごとに、アクセント音が入るようになります。

2. 設定を解除するには、もう一度MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、ランプの点灯している音色セレクターを押します。

ランプが消えて、メトロノーム音はアクセントの付かない状態に戻ります。

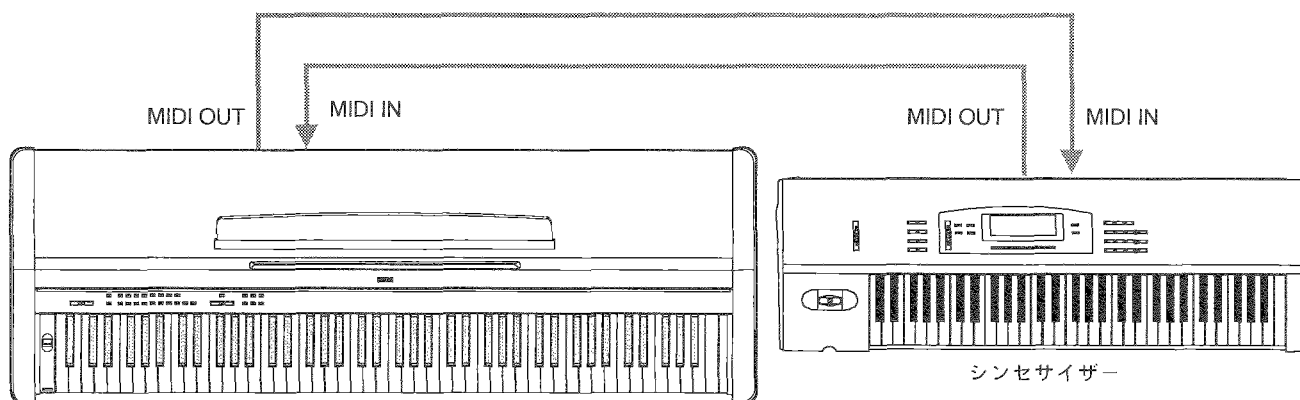
- 電源を入れた直後は拍子設定のない(アクセントのない)状態となります。



MIDI を使って

MIDI(ミディ)とは、ミュージカルインストゥルメント デジタル インターフェイスMUSICAL INSTRUMENT DIGITAL INTERFACEの略で、あらゆる種類の電子音楽機器をデジタル信号で結ぶことのできる、世界共通の規格です。この規格を持っているMIDI機器を複数つないで、演奏データをやり取りすることによって、何台ものキーボードを同時に演奏したり、コンピューターを接続して自動演奏をすることができます。例えば、C-56Mにシンセサイザーを接続してC-56Mの鍵盤で同時にシンセサイザーを演奏して、ピアノとシンセサイザーのアンサンブルを楽しむといった使い方や、MIDIシーケンサー(自動演奏装置)を接続して、たくさんのMIDI機器のいろいろな音色を使って自動演奏を楽しむといった使い方があります。C-56Mのリアパネルには、MIDI IN、MIDI OUTそしてMIDI THRUという3つの端子が付いています。OUTはC-56MからのMIDI情報を送り出し、INは他のMIDI情報を受け取ります。THRUは、INで受け取った情報をそのまま外へ送り出すというものです。

図は、C-56Mとシンセサイザーを接続した例です。MIDIケーブルを使って、C-56Mとシンセサイザーを、図のように接続してください。

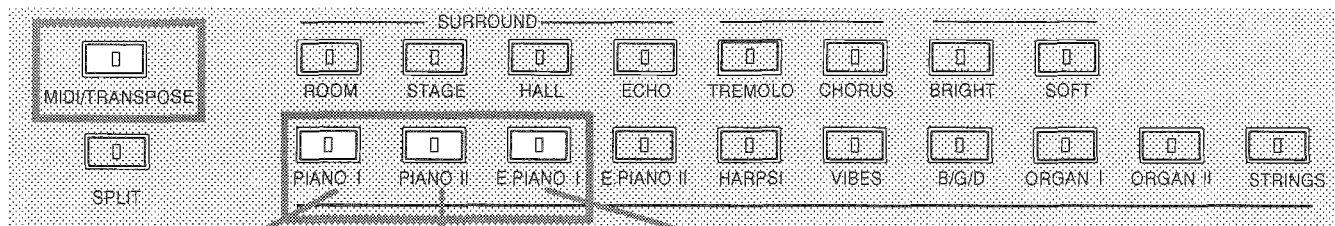


この説明書では、外部MIDI機器にC-56Mを接続して楽しんでいただくための基本的な設定方法が示してあります。このようなMIDIの活用法についてさらに興味のある方は、シンセサイザーやシーケンサーなどのMIDI機器の取扱説明書や付属の“MIDI MINI TEXT”をご覧ください。

MIDIモードの設定

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しますと、音色セレクターのスイッチや鍵盤が、下のような機能にかわります。これらを利用して、MIDIに関するモードの設定を行います。

MIDI/TRANSPOSEスイッチ

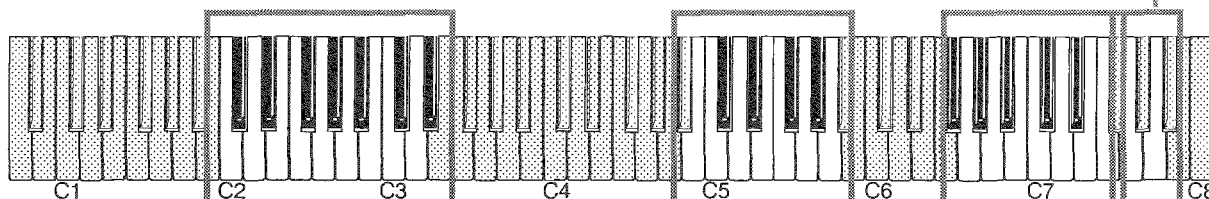


ローカル
オン/オフ

プログラムチェンジ
キャンセル/イネーブル

コントロールチェンジ
キャンセル/イネーブル

ベロシティカーブ設定用鍵盤
(G 7&A 7)



MIDIチャンネル設定用鍵盤
(C 2~D#3)

プログラムチェンジ用鍵盤
(B 4~A 5)

トランスポーズ設定用鍵盤
(F#6~F 7)

MIDIモードの初期設定

電源を入れた直後は、MIDIに関するモードは、自動的に右のように設定されます。

MIDIチャンネル	...1
ローカル・オン/オフ	...オン
プログラムチェンジ	...イネーブル
コントロールチェンジ	...イネーブル

1. MIDIチャンネルの設定

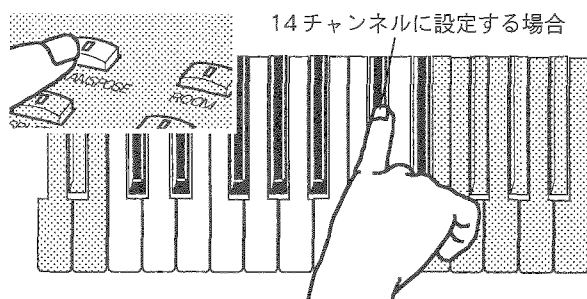
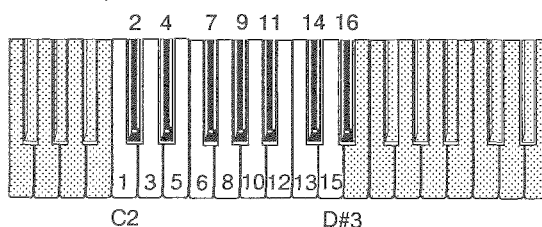
MIDIの演奏データを送受信するときは、必ずチャンネル指定をするようになっています。これは、データを受信する側で、チャンネルを切り替えることによって、必要な演奏情報だけを受け取って演奏させるためです。1~16チャンネルまで設定することができます。

操作

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、MIDIチャンネル設定用の鍵盤のなかから、設定したいチャンネル番号に対応した鍵を押します。

- 電源を入れた直後は、自動的にチャンネル1に設定されます。

MIDIチャンネル



この場合、送信チャンネルは14で送られることになり、受信チャンネルは14、15、16チャンネルとなります (**MIDIマルチ機能を活用しましょう**参照)。

2. ローカル・オン/オフ

C-56MにシンセサイザーなどのMIDI機器を接続して、C-56Mの鍵盤を弾いたときに、C-56M本体からは音を出さず、接続した機器だけがC-56Mで弾いたとおりに鳴るようにすることができます。

操作

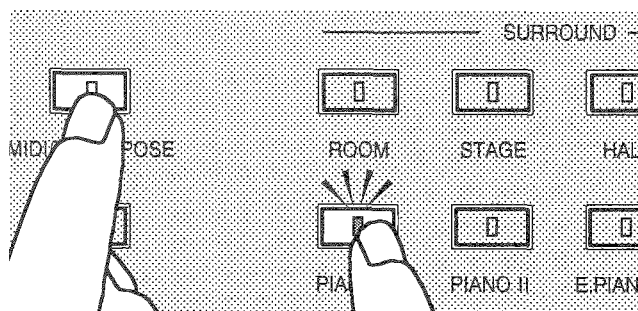
MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、PIANO Iの音色セレクターを押すたびに、オン/オフが切り替わります。

ローカル・オンの状態...(音色セレクターの
↑ ↓ ランプが消灯します)

ローカル・オフの状態...(音色セレクターの
ランプが点灯します)

- 電源を入れた直後は、自動的にローカル・オンに設定されています。この状態では、C-56Mの音が普通に鳴ります。

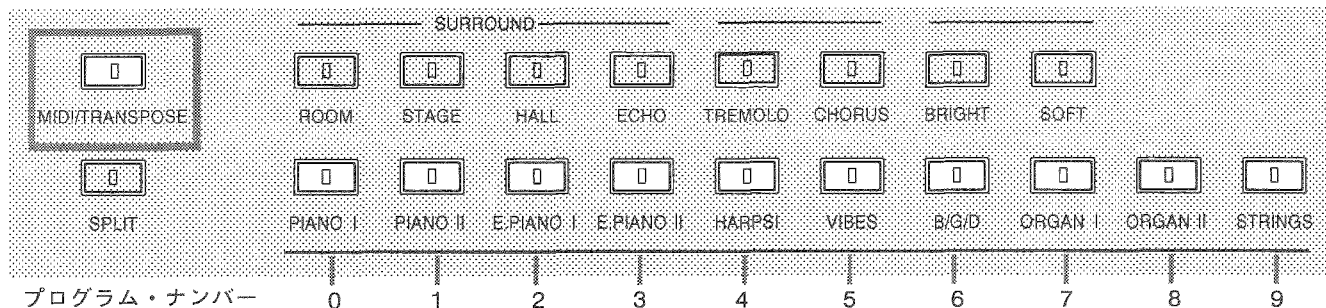
- ローカル・オフに設定すると、鍵盤を弾いてもC-56M本体からは音が出ず、接続されているMIDI機器だけが鳴るようになります。



3. プログラム・チェンジ

プログラム・チェンジとは、MIDI機器の音色を切り替える情報を送信したり、受信したりする機能のことです。

● C-56Mの音色セレクターを押して音色を選択すると、下のように、音色セレクターに対応した0から9までのMIDIのプログラムナンバーが、C-56Mに接続されているMIDI機器に送信されます。

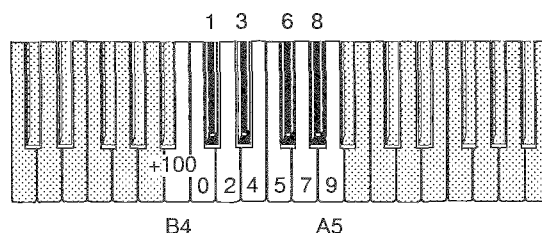


鍵盤を使ってプログラムナンバーを送信する

シンセサイザーなどでは、一般に音色が11以上内蔵されていることがあります。そのような電子楽器にプログラムチェンジを送信するには、鍵盤を音色セレクターに見立てて行います。

C-56Mでは0から127までのMIDIのプログラムナンバーを送信することができます。

MIDIプログラムナンバー



操作

1. プログラムナンバー0から99までは、2桁の数字として扱います。

MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、

プログラムナンバー0なら、	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>
プログラムナンバー1なら、	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="1"/>
⋮	⋮	⋮
プログラムナンバー99なら、	<input type="text" value="9"/>	<input type="text" value="9"/>

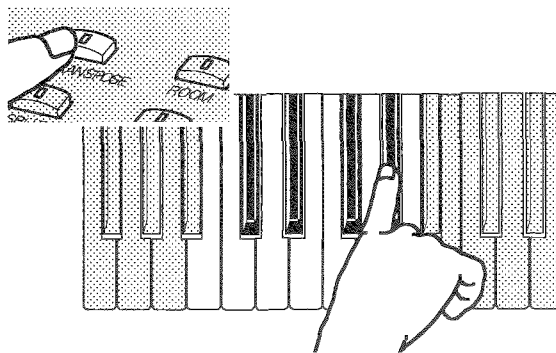
という順序で、鍵盤を押します。

2. プログラムナンバーが100以上のときは、まず を押してから、下2桁の数字を押します。

MIDI/TRANPOSEスイッチを押しながら、

ナンバー100なら、	<input type="text" value="+100"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>
ナンバー101なら、	<input type="text" value="+100"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="1"/>
⋮	⋮	⋮	⋮
ナンバー127なら、	<input type="text" value="+100"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="7"/>

という順序で、鍵盤を押します。



- 鍵盤を使ってプログラム・チェンジを行う場合、プログラムナンバーは、プログラム・チェンジ・キャンセルのオン/オフに関係なく送信されます。くわしくは、**プログラム・チェンジ・キャンセル**をご覧ください。

レイヤー・モードでのプログラム・チェンジ

レイヤー・モードでC-56Mの音色を変更したときは、2つ押した音色セレクターのうち、後から押したほうの音色セレクターに対応するプログラムナンバーが、外部のMIDI機器に送信されます。くわしくは、10ページ『レイヤーモード』をご覧ください。

また、C-56Mがレイヤー・モードのときに、外部からプログラム・チェンジが送られてくると、C-56Mの2つ選択されている音色のうち、音色セレクター上で左側に配置されているほうの音色が、受信したプログラムナンバーにしたがって切り替わります。

- C-56Mの音色数を超えるプログラムナンバーを受信しても、C-56Mの音色は切り替わりません。

スプリット・モードでのプログラム・チェンジ

スプリット・モードで音色を変更したときには、高音側に設定されている音色の音色セレクターに対応するプログラムナンバーが、外部のMIDI機器に送信されます。

また、C-56Mがスプリット・モードのときに、外部からプログラム・チェンジが送られてくると、C-56Mの鍵盤の高音側に設定されているほうの音色が、受信したプログラムナンバーにしたがって切り替わります。

ただし、外部から送られてくるプログラム・チェンジによって、本体の音色を変更しようとする場合、現在すでに低音側として設定されている音色へ変更することはできません。

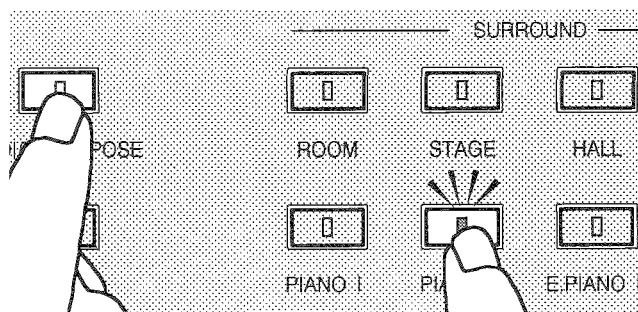
プログラム・チェンジ・キャンセル

プログラム・チェンジの情報を、送信・受信したくないときは、プログラム・チェンジをキャンセルに設定してください。

- 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。この状態では、C-56Mのプログラム・チェンジを、接続した他のMIDI機器へ送信したり、他のMIDI機器からプログラム・チェンジを受信して音色を切り替えることができます。

操作

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、PIANO IIの音色セレクターを押すたびに、キャンセル/イネーブルが切り替わります。



キャンセルの状態 …… (音色セレクターのランプが点灯します)



イネーブルの状態 …… (音色セレクターのランプが消灯します)

4. コントロール・チェンジ

コントロール・チェンジとは、ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルなどのコントロール情報のことをいいます。この情報を送信・受信したくないときは、コントロール・チェンジをキャンセルに設定してください。

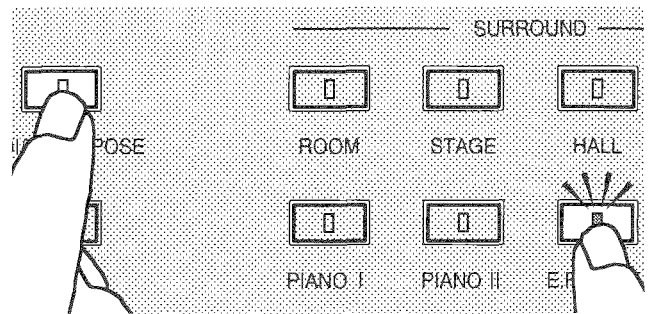
- 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。この状態では、C-56Mのダンパーペダルやソフトペダルで、接続した他のMIDI機器をコントロールしたり、他のMIDI機器からコントロール・チェンジを受信して、C-56Mのダンパーを操作することなどができます。

操作

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、E.PIANO I の音色セクターを押すたびに、キャンセル/イネーブルが切り替わります。

キャンセルの状態………(音色セクターのランプ
↑ ↓ が点灯します)
イネーブルの状態………(音色セクターのランプ
が消灯します)

- コントロール・チェンジのキャンセル/イネーブルを設定するときは、ペダルを踏まない状態で設定を行ってください。

**注意**

外部からのコントロール・チェンジは、本体のペダルの設定の変更(「**レイヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定**」参照)に関係なく、レイヤー・モードやスプリット・モードにおいても、つねに両方の音色に対して有効となります。

5. ベロシティ・カーブ・セレクト

ベロシティとは、鍵盤を叩くときの強さ(速さ)のことです。C-56Mでは、ベロシティに対する音量や音色の変化のしかた(ベロシティ・カーブ)がピアノの演奏に適したものとなっています。

C-56Mを他のシンセサイザーにMIDI接続して、C-56Mの鍵盤でシンセサイザーを演奏するような場合、音量や音色の変化のしかたが不自然になることがあります。

このような場合、C-56Mのベロシティ・カーブを、シンセサイザーの演奏に適したカーブに設定し直すことができます。

操作

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、ベロシティ・カーブ設定用の鍵盤を押します。

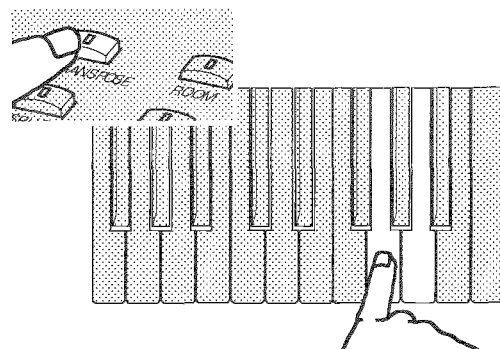
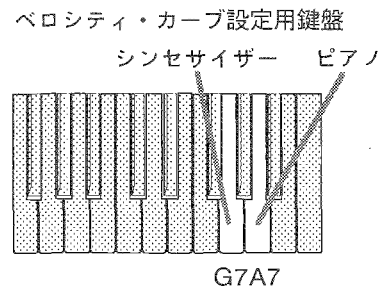
G7 鍵を押したとき ...シンセサイザーに適したカーブ
A7 鍵を押したとき ...ピアノに適したカーブ

- 電源を入れた直後は、ピアノに適したベロシティ・カーブが自動的に設定されています。

注意

ベロシティ・カーブ・セレクトは、MIDIで接続された外部の音源に対してのみ機能します。

C-56M本体の音はタッチコントロールの設定に従います。

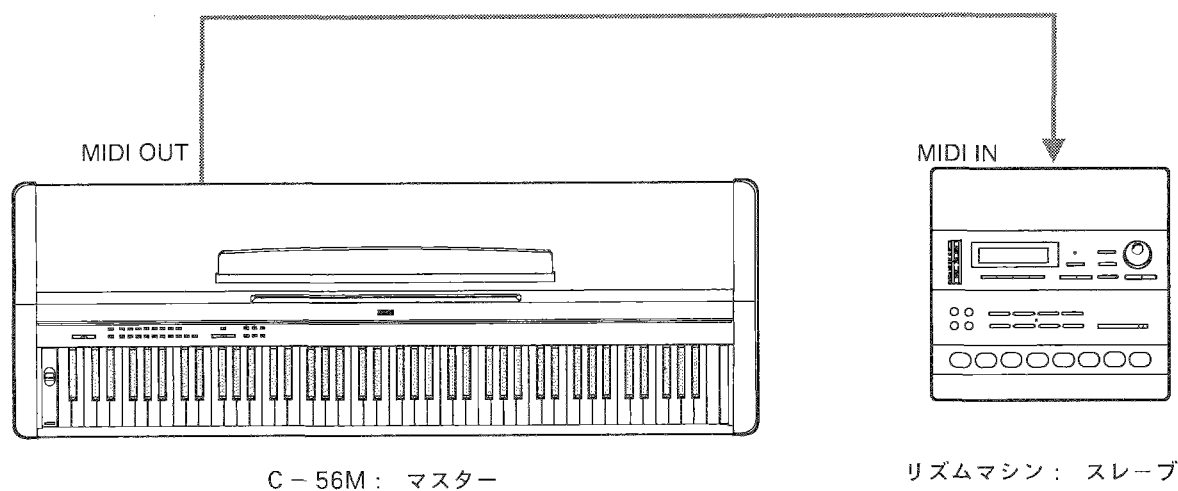


外部MIDI機器との同期

C-56MのレコーダーはMIDIで接続した外部のリズムマシンやシーケンサーなどと同時に演奏を行うことができます（「同期をとる」といいます）。

C-56Mはマスター機（コントロールを行う機器）として働きますので、接続した外部MIDI機器をスレーブ機（コントロールされる側の機器）として設定し、C-56MのMIDI OUTとスレーブ側のMIDI INを接続してください。

MIDIケーブルを使って、C-56Mとリズムマシンを、図のように接続します。



- お互いのスタート/ストップは、C-56MのSTART/STOPスイッチで行います。
- C-56Mから出力されるMIDIクロック（テンポを合わせるための信号）はテンポ・ボリュームに従います（接続するMIDI機器のクロックの設定などはそれぞれの取扱説明書をご覧ください）。

MIDI マルチ機能を活用しましょう

C-56Mでは、同時に二種類の音色を鍵盤上で演奏することができます(**二つの音色を同時に出してみましょう** 参照)が、外部MIDI機器を接続して、外部からコントロールすることによって、もっと多くの音色を一度に鳴らすことができます。同時受信チャンネル数はパネル上の設定音と音色数をたした11です。

- 電源入れた後の受信チャンネルと音色の関係は以下のようになります。

チャンネル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
音色	パネル上の設定	PIANO I	PIANO II	E.PIANO I	E.PIANO II	HARPSI	VIBES	B/G/D	ORGAN I	ORGAN II	STRINGS

- MIDIチャンネルの設定により (MIDIチャンネルの設定参照)、音色に対応する受信チャンネルの変更ができます。その場合、設定したチャンネルから、大きいチャンネルナンバーへと順番に音色が対応します。

MIDIチャンネルを3に設定した場合

チャンネル	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
音色	パネル上の設定	PIANO I	PIANO II	E.PIANO I	E.PIANO II	HARPSI	VIBES	B/G/D	ORGAN I	ORGAN II	STRINGS

MIDIチャンネルを14に設定した場合

チャンネル	14	15	16								
音色	パネル上の設定	PIANO I	PIANO II								

設定チャンネルが16チャンネルの場合、パネル上の音色が16チャンネルで発音し、それ以外のチャンネルでは発音しないことになります。

MIDIチャンネルを16に設定した場合

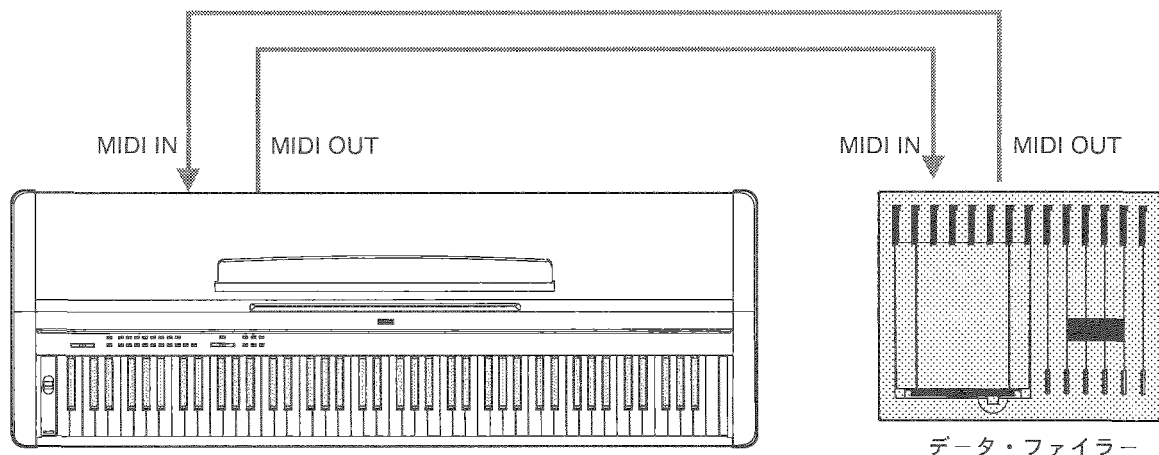
チャンネル	16										
音色	パネル上の設定										

MIDI データ・ダンプ機能

MIDI データ・ダンプ機能を使いますと、C-56M のレコーダーに録音した演奏データを、外部の記憶装置に保管しておくことができます。たとえば、いくつもの曲や演奏を保管しておいて、そのなかから必要に応じて好きな曲を選んで、練習や録音の続きを行う、といった使い方ができます。

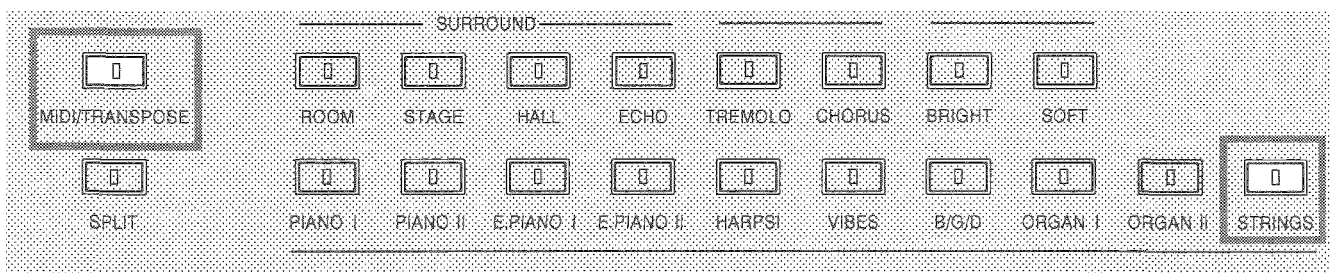
この外部記憶装置とは、一般に『MIDI データ・ファイラー』などの名称で呼ばれているもので、一部の MIDI シーケンサーやシンセサイザーに内蔵されていることもあります。データ・ファイラーを使って演奏データの管理を行うときは、必ずデータ・ファイラーに付属している取扱説明書をよくお読みください。

まず、MIDI ケーブルを使って、C-56M とデータ・ファイラーを、図のように接続しておきます。



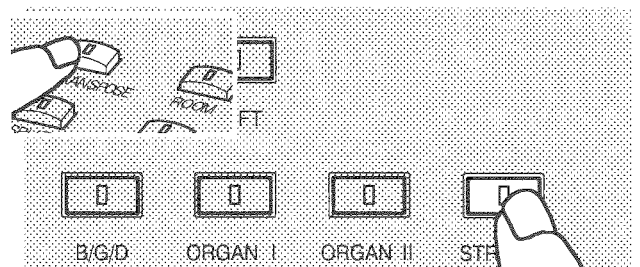
C-56M の演奏データを、データ・ファイラーに保管するには

データ・ダンプの操作を行うには、C-56M のフロントパネル上の MIDI/TRANSPOSE スイッチと、音色セレクターの STRINGS を使います。



操作

1. データ・ファイラーを操作して、C-56M からの MIDI データを、受信待ちの状態にしておきます (データの受信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください)。
2. C-56M の MIDI/TRANSPOSE スイッチを押しながら、音色セレクターの STRINGS を押します。



データ・ダンプが開始し、C-56M の演奏データがデータ・ファイラーに送信されます。

注意

データ・ダンプに要する時間は、演奏データの量によって異なりますが、データ・ダンプが完了しますと、データ・ファイラー側では演奏データの受信が終了したことを意味する表示がなされます (表示のされ方は、データ・ファイラーの機種によって異なりますので、それぞれの取扱説明書をご覧ください)。データ・ダンプ中に C-56M やデータ・ファイラーを操作しますと、データ・ダンプがうまく行われなことがあるためご注意ください。

データ・ファイラーに保管しておいた演奏データを、C-56M のレコーダーに戻すには

まず、データ・ファイラーと C-56M を MIDI ケーブルで正しく接続しておいてください。C-56M は、電源を入れた状態にしておきます。

操作

データ・ファイラーを操作して、あらかじめ保管しておいた C-56M の演奏データを送信してやります (データの送信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください)。

データ・ファイラーからのデータを受信している間は、C-56M からは音は出ません。

データの受信が終り、演奏データが C-56M のレコーダー内に元どおりに正しく納められますと、C-56M は音の出る通常の状態に戻ります。レコーダーを操作して、演奏データの再生や録音をお楽しみください。

注意

データ・ファイラーからのデータを受信している間は、C-56M からは音は出ません。

注意

ペダルの設定の変更の情報 (**レインヤーおよびスプリットにおけるペダルの設定** 参照) は、データ・ファイラーに記録しておくことはできません。

MIDI インプリメンテーション

1. TRANSMITTED DATA

1-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0100 0000	Note Off kkk kkkk=15~113	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On kkk kkkk=15~113 vvv vvvv=1~127	A
1011 nnnn	0100 0000	0000 0000	Damper Off(Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0000	0111 1111	Damper On(Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0010	0000 0000	Sosutenuto Off(Sosutenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0010	0111 1111	Sosutenuto On(Sosutenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0011	0000 0000	Soft Off(Soft Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0011	0111 1111	Soft On(Soft Pedal)	C
1100 nnnn	0ppp pppp	-----	Program Change ppp pppp=0~127	P*

nnnn : MIDI Channel No.(0~15)Usually Global Channel.

ENA=A : Always Enabled

C : Enabled when Control Filter is ENA

P : Enabled when Program Filter is ENA

*Program change is transmitted through keyboard, regardless of ENABLE/CANCEL.

1-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description	
1111 1000	Timing Clock	*2
1111 1010	Start	*2
1111 1011	Continue	*2
1111 1100	Stop	*2
1111 1110	Active Sensing	

*2 : Transmits when Recorder is playing or Recording

2. RECOGNIZED RECEIVE DATA

2-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On vvv vvvv=1~127	A
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume	C
1011 nnnn	0100 0000	00xx xxxx	Damper Off	C
1011 nnnn	0100 0000	01xx xxxx	Damper On	C
1011 nnnn	0100 0010	00xx xxxx	Sosutenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	01xx xxxx	Sosutenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	00xx xxxx	Soft Off	C
1011 nnnn	0100 0011	01xx xxxx	Soft On	C
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Control Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local Control On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 110x	0000 0000	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1110	000m mmmm	(All Notes Off) m mmmm=0~16	A
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0ppp pppp	-----	Program Change	A

x : Random

ENA Same as TRANSMITTED DATA

2-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1110	Active Sensing

3. MIDI EXCLUSIVE FORMAT(R:Receive, T:Transmit)

3-1 SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE

1st Byte = 1111 0000(F0) : Exclusive Status	EX.Header
2nd Byte = 0100 0010(42) : KORG ID	
3rd Byte = 0011 nnnn(3n) : Format ID n : Global ch.	
4th Byte = 0010 1011(2F) : C-56M ID	
5th Byte = 0100 1000(48) : Function=All Sequencer Data Dump	
6th Byte = 0ddd dddd(dd) : Data	
.....	
LastByte = 1111 0111(F7) : End of Exclusive EOX	

ALL SEQUENCER DATA DUMP R, T

Byte	Description
F0, 42, 3n, 2F	EXCLUSIVE HEADER
0100 1000	ALL SEQUENCER DATA DUMP 48H
00mm iiii	channel 0 status (See Note 1)
0bbb jjjj
0kkk kkkk	
0ppp pppp	
0qqq qqqq	
.....	
00mm iiii	channel 15 status (See Note 1)
0bbb jjjj
0kkk kkkk	
0ppp pppp	
0qqq qqqq	
.....	
0rrr rrrr	Track 1 Data size(=0hmm mmmm mrrr rrrr)
0mmm mmmm	Track 1 Data
0000 000h	
0ddd dddd	
.....	
0rrr rrrr	Track 2 Data size(0hmm mmmm mrrr rrrr)
0mmm mmmm	Track 2 Data
0000 000h	
0ddd dddd	
.....	
0000 cccc	Next Bounce Channel
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

Note 1)

- mm : 00=Single, 01=Split, 10=Layer, 11=Inhibit
- iiii : Instrument No. (Single, Split Upper, Layer1)
- jjjj : Instrument No. (Split Lower, Layer2)
- bbb : Volume balance
- kkkkkkk : Split point
- ppppppp : Upper Split Octave Value
- qqqqqqq : Lower Split Octave Value

ch0:Track1, ch1:Track2, ch2~ch15:Bounce channel(Track2)

C-56M MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1 1-16	1-16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	× × *****	3 ×	
ノートナンバー : 音域	15-113 *****	0-127 21-108	
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ	1-127 ×	1-127 ×	
アフタータッチ キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
7	×	○	ボリューム *1
64	○	○	ダンパー・ペダル *2
66	○	○	ソステヌート・ペダル *2
67	○	○	ソフト・ペダル *2
コントロール チェンジ			
プログラム チェンジ: 設定可能範囲	0-127 *****	0-9 0-9	*3
エクスクルーシブ	○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
: ソング・ポジション	×	×	
コモン: ソング・セレクト	×	×	
: チューン	×	×	
リアルタイム: クロック	○	×	
: コマンド	○	×	
: ローカルON/OFF	×	○	
その他: オール・ノート・オフ	×	○ 123-127	
: アクティブ・センシング	○	○	
: リセット	×	×	
備考	*1 コントロール・チェンジがイネーブルに設定されているとき、受信する。 *2 コントロール・チェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *3 プログラム・チェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 鍵盤を使ったプログラム・チェンジは、イネーブル/キャンセルに関係なく送信する。		

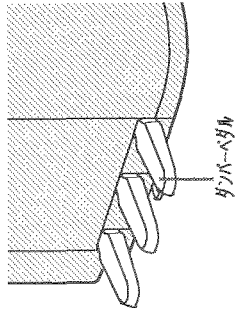
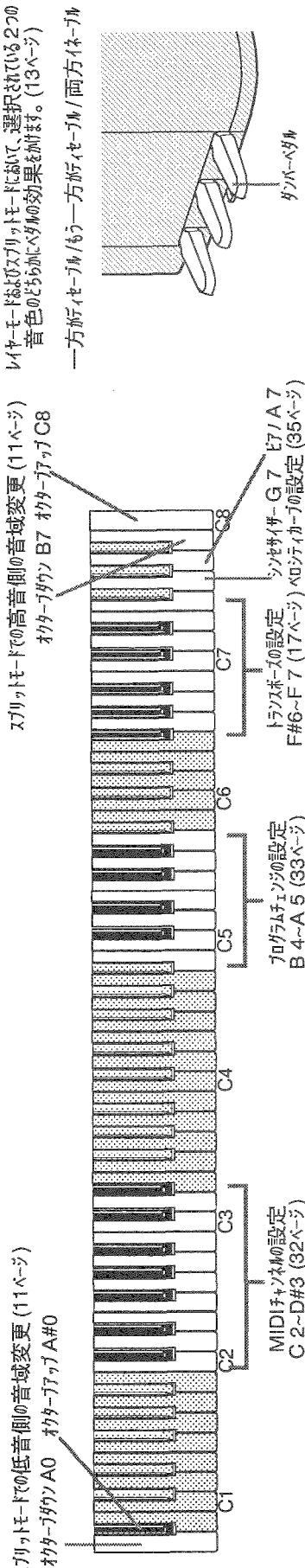
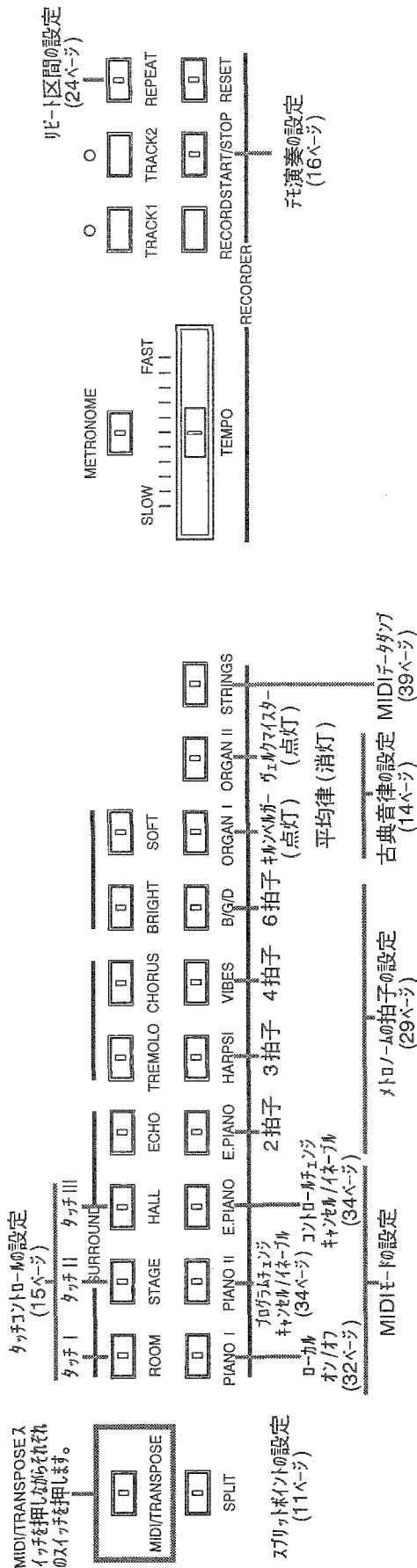
モード 1: オムニ・オン、ポリ
モード 3: オムニ・オフ、ポリ

モード 2: オムニ・オン、モノ
モード 4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

MIDI/TRANSPOSE スイッチの機能

MIDI/TRANSPOSE スイッチは、トランスポート機能や MIDI モードを設定する他にさまざまな機能を設定するときに用います。



故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、下記の事柄を確認してください。

それでも症状が改善されない場合は、お近くの販売店、またはコルグ・サービスセンターまでお問い合わせください。

電源が入らない	→	電源コードがソケットにしっかり入っていますか？
音が出ない	→	①ボリュームが0になっていませんか？ ②MIDIモードでローカルオフになっていませんか？ ③ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？

仕 様

■鍵盤	88鍵(A0~C8)
■音色	10音色: ピアノ1, ピアノ2, エレクトリック・ピアノ1, エレクトリック・ピアノ2, ハープシコード, バイブ, ベース/ギター/ドラム, オルガン1, オルガン2, スtringス
■同時発音数	32
■効果	サラウンド(ルーム, ステージ, ホール, エコー)トレモロ, コーラス, ブライト, ソフト
■レコーダー	最大3,400ノート・テンポ, メトロノーム,トラック1,トラック2, リビート, レコード, スタート/ストップ, リセット(バウンス機能付き)
■キーボードモード	シングル, レイヤー, スプリット, (MIDIマルチ)
■コントロール	ボリューム, パワースイッチ, キートランスポーズ, ピッチコントロール, タッチコントロール, 古典調律
■ペダル	ダンパー, ソフト, ソステナート
■接続端子	ヘッドホン, AUXイン(L, R), AUXアウト(L, R), MIDIイン, アウト, スルー
■メインアンプ	(40W+10W) × 2
■スピーカー	16cm × 2, 8cm × 2, 5cm × 2
■定格電源	AC100V 50Hz/60Hz
■消費電力	100W
■外装仕上げ	ブラックウォルナット
■外形寸法	1382(W) × 491.5(D) × 844(H)mm
■重量(スタンド含)	54.8kg
■付属品	譜面立て, キーカバー

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

- ①消耗部品(電池など)を交換する場合。
- ②輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
- ③天災(火災等)によって生じた故障。
- ④故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
- ⑤コルグサービスステーション及びコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
- ⑥保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
- ⑦保証期間が切れている場合。
- ⑧日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3カ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションセンターまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと、修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任をもってさせていただきます。修理用性能部品(電子回路など)は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品(パネル、スイッチなど)の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーションセンター	〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5新宿第一富士ビルB1F	☎ (03)3363-5995
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17	☎ (03)3323-5241
横浜営業所	〒220 横浜市西区北幸2-10-42寺内ビル2F	☎ (045)324-7776
北関東営業所	〒331 大宮市桜木町4-929-2	☎ (048)644-6800
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F	☎ (06)374-0691
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51	☎ (052)832-1419
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F	☎ (092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。
 営業技術課〒157 東京都世田谷区南烏山4-28-20 ☎(03)3309-7004

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Property qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)



■本社: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03)3325-5691(代) ■インフォメーションセンター: 〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5第一フレキシ ☎(03)3363-5995
 ■東京営業所: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎(03)3323-5241 ■横浜営業所: 〒220 横浜市西区北幸2-10-42 ☎(045)324-7776(代)
 ■北関東営業所: 〒331 大宮市桜木町4-929-2 ☎(048)644-6800(代) ■大阪営業所: 〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F ☎(06)374-0691(代) ■名古屋営業所/ホール/スタジオ: 〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎(052)832-1419(代) ■福岡営業所: 〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田EPIF ☎(092)531-0166(代)